

## 第4章

### 日常生活圏域別地域分析



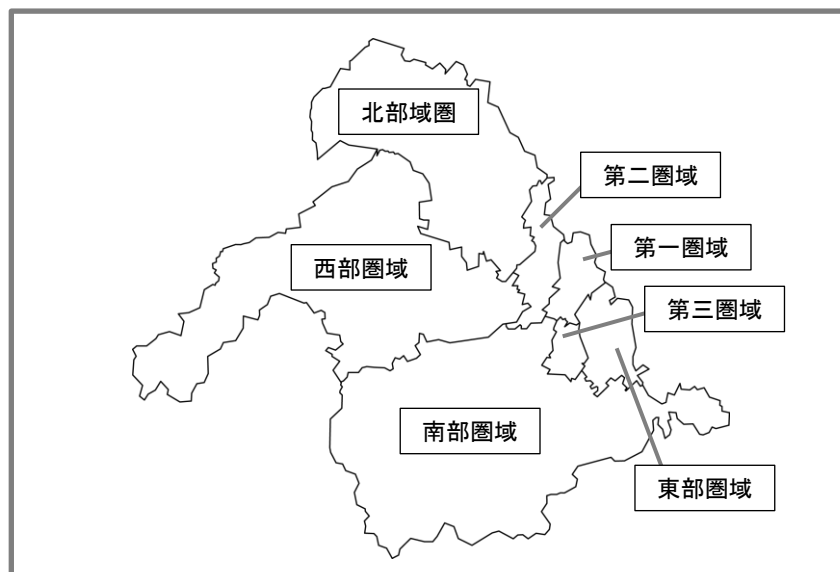
## 第4章 日常生活圏域別地域分析

第4章は調査結果から7つの日常生活圏域別に市全域と比較しながら、高齢者の健康自立度や生活実態、地域の活動やたすけあいの状況など、各圏域の地域特性を分析しました。

日常生活圏域名	高齢者人口 (人)	一般高齢者 (人)	認定者 (人)	認定率 (%)
市全域	54,076	43,987	10,089	18.7
第一圏域	8,014	6,547	1,467	18.3
第二圏域	6,518	5,286	1,232	18.9
第三圏域	10,293	8,328	1,965	19.1
東部圏域	6,995	5,792	1,203	17.2
西部圏域	4,283	3,388	895	20.9
南部圏域	12,993	10,691	2,302	17.7
北部圏域	4,980	3,955	1,025	20.6

日常生活圏域名	要支援認定者 (人)	要介護認定者 (人)	重度認定者	
			要介護3～5 (人)	認定率 (%)
市全域	2,479	7,610	3,597	6.7
第一圏域	360	1,107	504	6.3
第二圏域	355	877	410	6.3
第三圏域	539	1,426	728	7.1
東部圏域	235	968	454	6.5
西部圏域	194	701	359	8.4
南部圏域	555	1,747	800	6.2
北部圏域	241	784	342	6.9

※上記の数値は令和2年2月3日現在

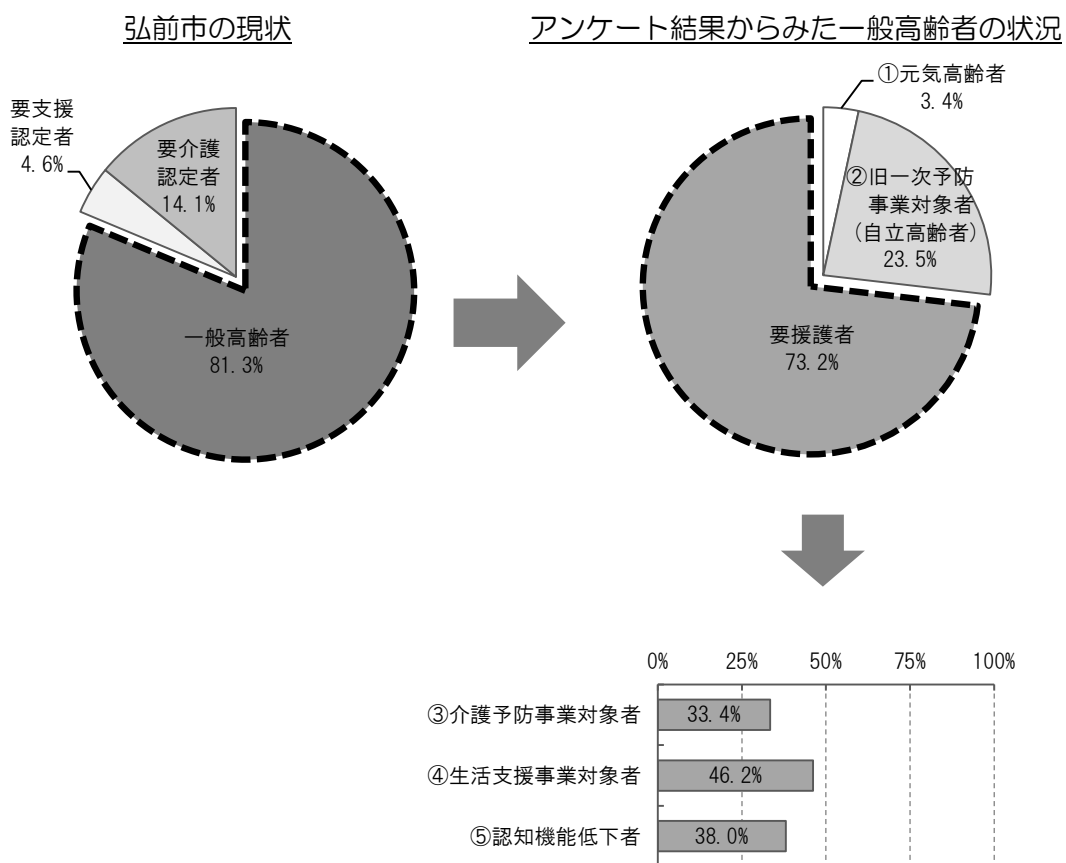


## 1 “5つの高齢者像”からみた地域分析

本市における令和2年2月現在の認定者数は10,089人（認定率18.7%）となり、認定者を除いた一般高齢者数は43,987人と高齢者人口の約8割を占めています。

また、調査結果から高齢者像別に出現率をみると、要援護者は73.2%、旧一次予防事業対象者は23.5%、元気高齢者は3.4%となっています。

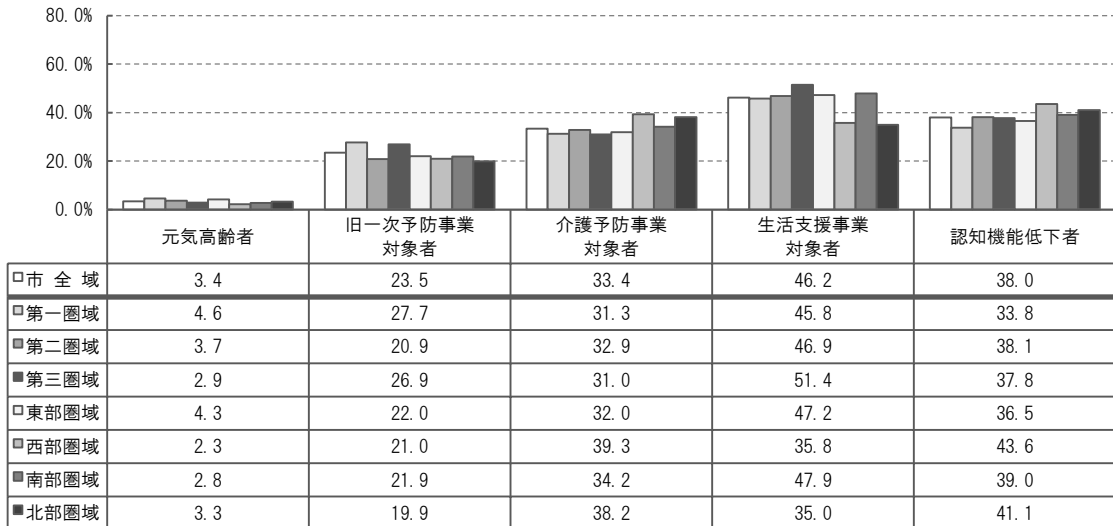
図 4.1 高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や要援護者（介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能低下者）を除いた高齢者です。

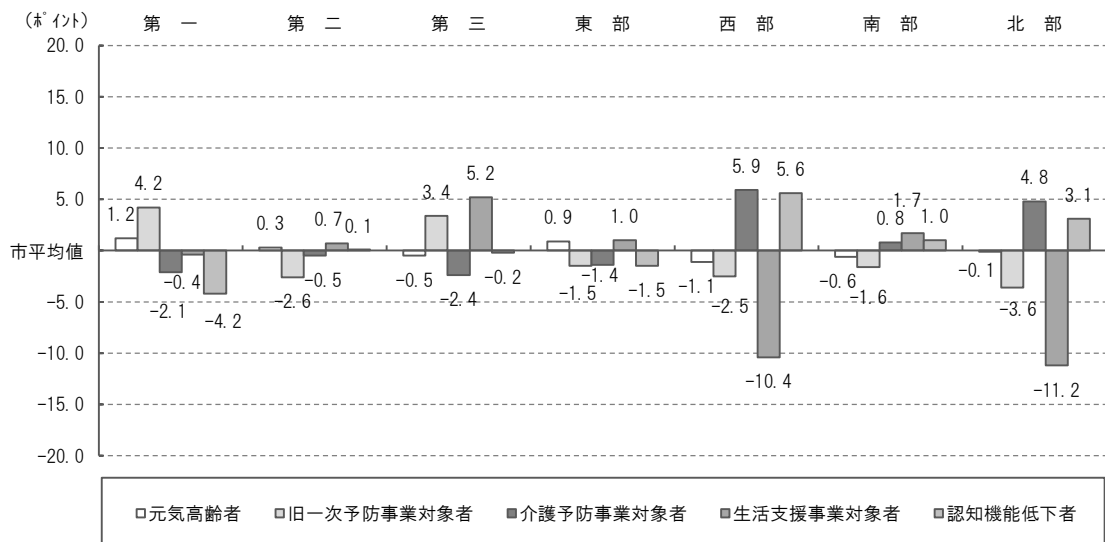
- 一般高齢者において5つの高齢者像別出現率の地域差をみると、元気高齢者は市平均値に比べて「第一」「東部」「第二」で高くなっています。
- 旧一次予防事業対象者は、「北部」「第二」「西部」「南部」「東部」で市平均値よりも低くなり、その差異は3.6～1.5ポイントとなっています。
- 要援護者をみると、介護予防事業対象者・認知機能低下者は「西部」(39.3%・43.6%)、生活支援事業対象者は「第三」(51.4%)が最も高くなっています。

図 4.2 5つの高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…ここでは、一般高齢者全体から元気高齢者や要援護者(介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能低下者)を除いた高齢者です。

図 4.3 5つの高齢者像別出現率の地域差



※市全域の出現率を市平均値(0.0)とします。

## 2 介護予防・日常生活支援総合事業に関する出現率と地域差

### (1) 介護予防事業対象者の状況

- 介護予防事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者は「西部」「北部」「南部」で市平均値を上回り高くなっています。
- 要支援者では「北部」「西部」「南部」で市平均値を上回る状況です。
- 圏域別にみると、一般高齢者は「西部」で5.9ポイント、「北部」で4.8ポイント高く、要支援者は「北部」で15.5ポイント、「西部」で8.4ポイント高くなっています。

図 4.4 介護予防事業対象者出現率

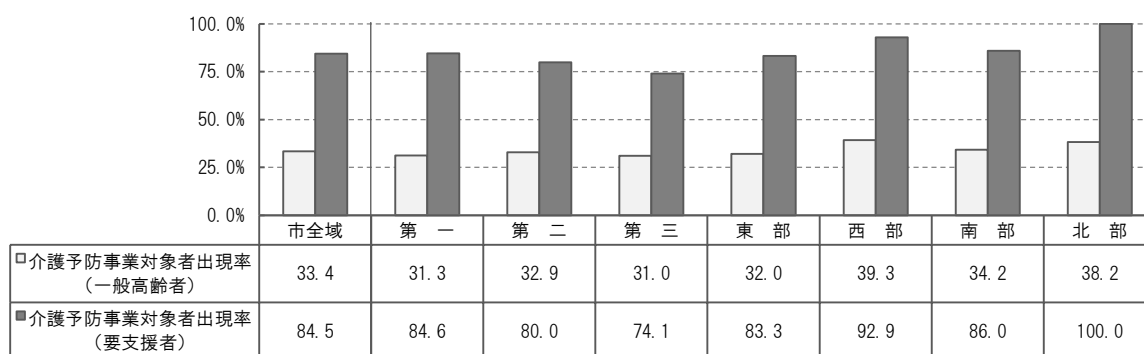
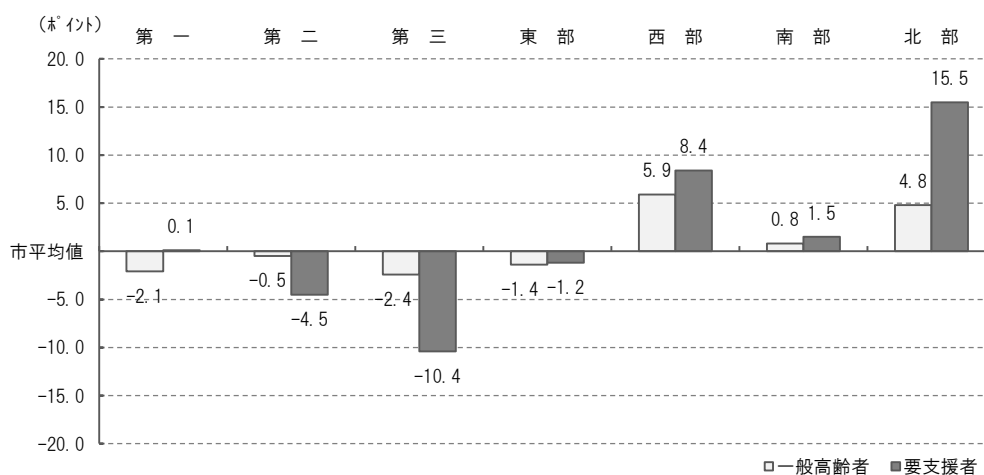


図 4.5 介護予防事業対象者出現率の地域差

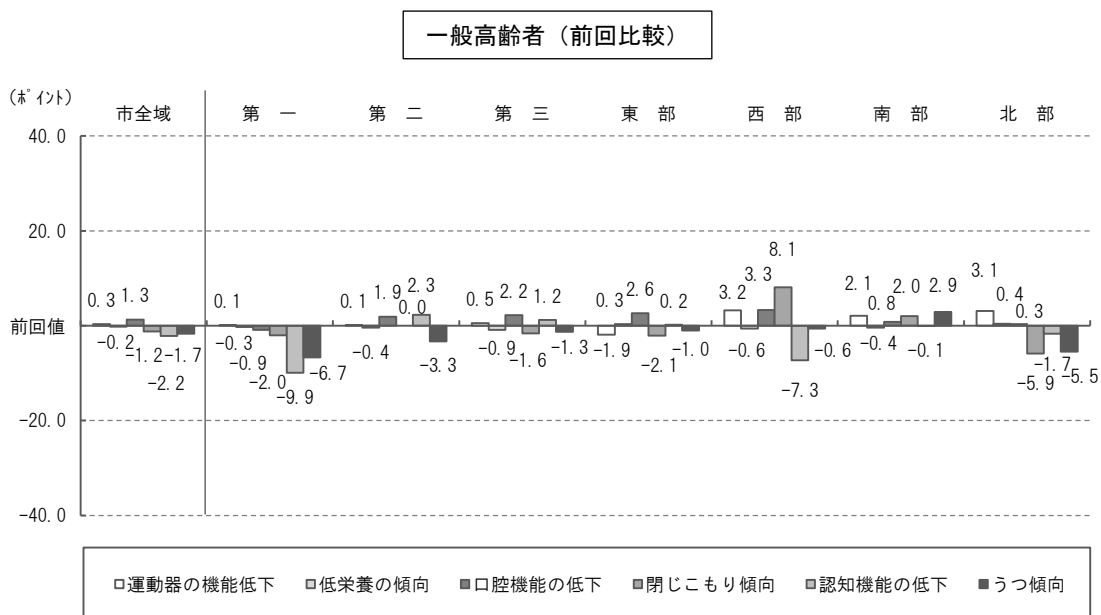
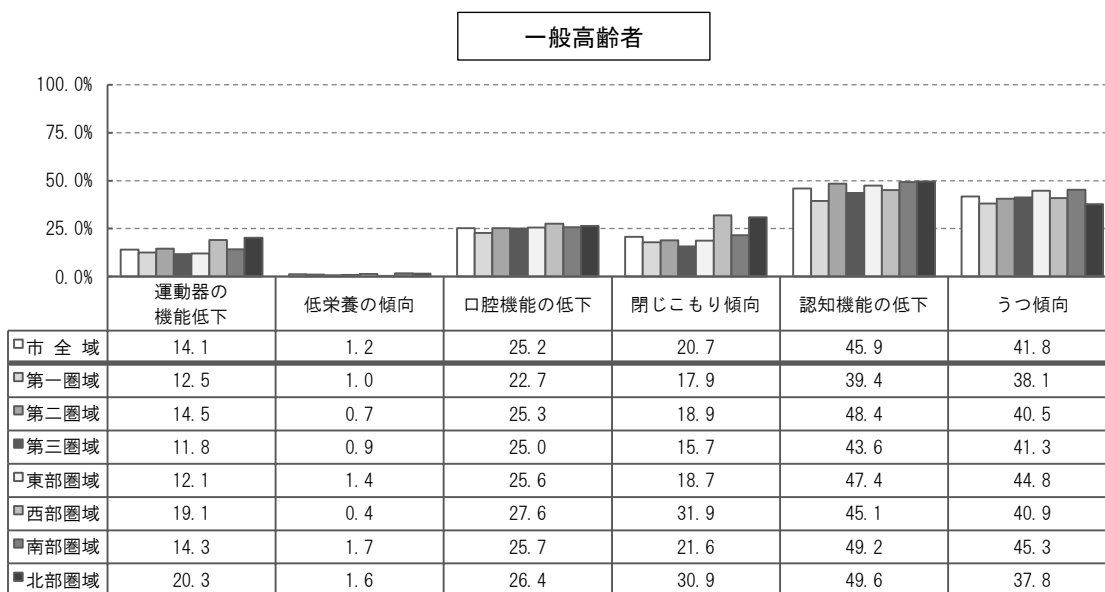


(2) リスクに該当する高齢者の状況

○一般高齢者において各リスクに該当する高齢者の出現率をみると、市全域では認知機能の低下（45.9%）が最も高く、次いでうつ傾向（41.8%）、口腔機能の低下（25.2%）、閉じこもり傾向（20.7%）、運動器の機能低下（14.1%）、低栄養の傾向（1.2%）となっています。

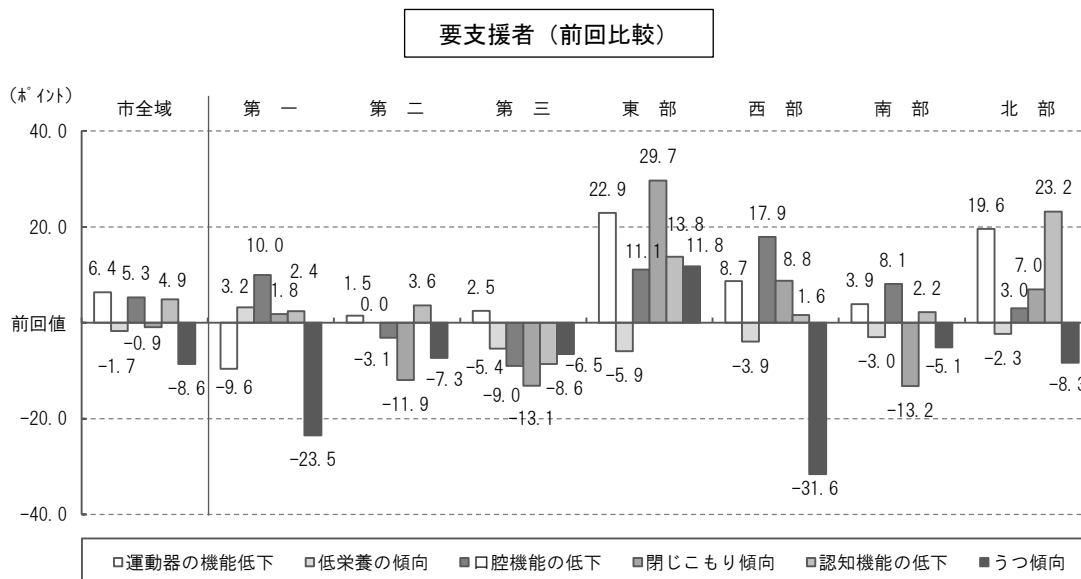
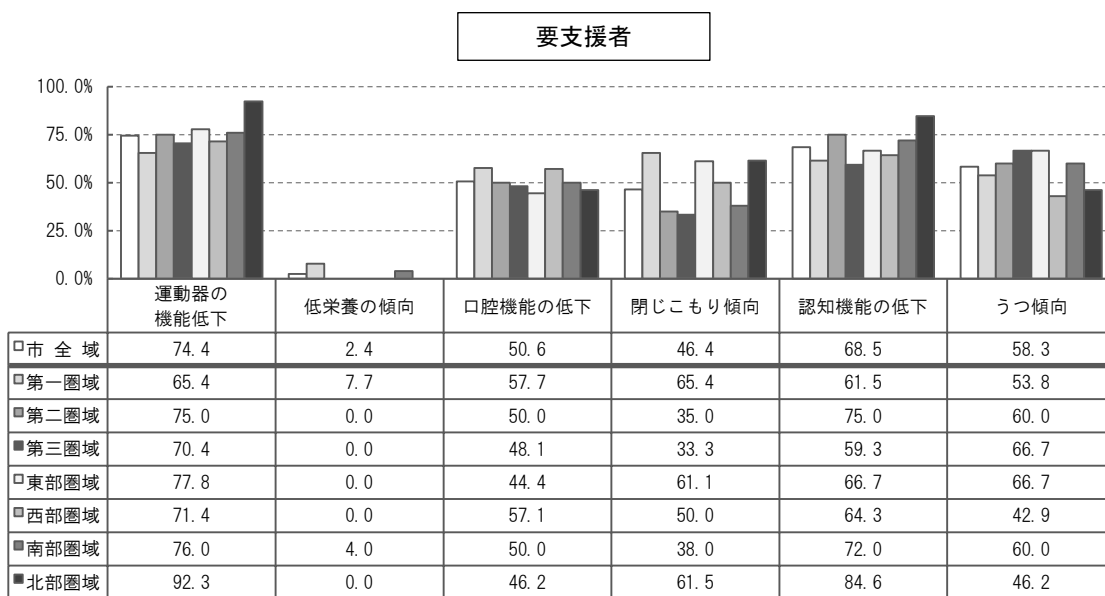
○前回調査と比較すると、閉じこもり傾向で「西部」が8.1ポイント高く、口腔機能の低下では「第一」を除く全ての圏域で高くなっています。

図 4.6 リスクに該当する高齢者の出現率



○要支援者において各リスクに該当する高齢者の出現率をみると、市全域では運動器の機能低下（74.4%）が最も高く、次いで認知機能の低下（68.5%）、うつ傾向（58.3%）、口腔機能の低下（50.6%）、閉じこもり傾向（46.4%）、低栄養の傾向（2.4%）となっています。

○前回調査と比較すると、「東部」は低栄養の傾向を除く全てのリスクで大きく（11.1～29.7ポイント）上昇しています。



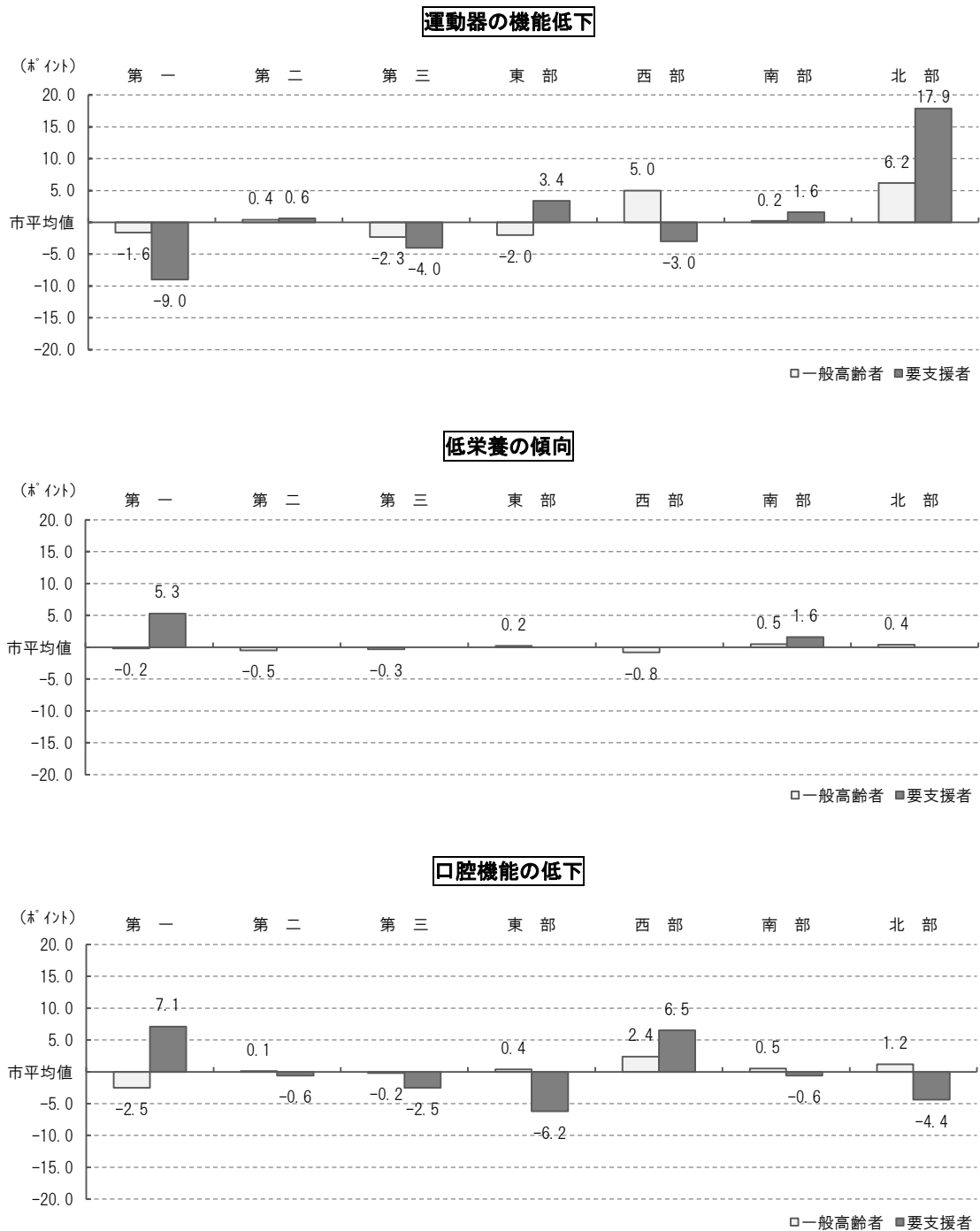


○リスクごとに出現率の地域差をみると、運動器の機能低下リスクは、「北部」で一般高齢者・要支援者ともに高くなっています。

○低栄養の傾向リスクは、「第一」の要支援者で高くなっています。

○口腔機能の低下リスクは、「第一」の要支援者、「西部」は一般高齢者・要支援者ともに高くなっています。

図 4.7 リスク者出現率の地域差

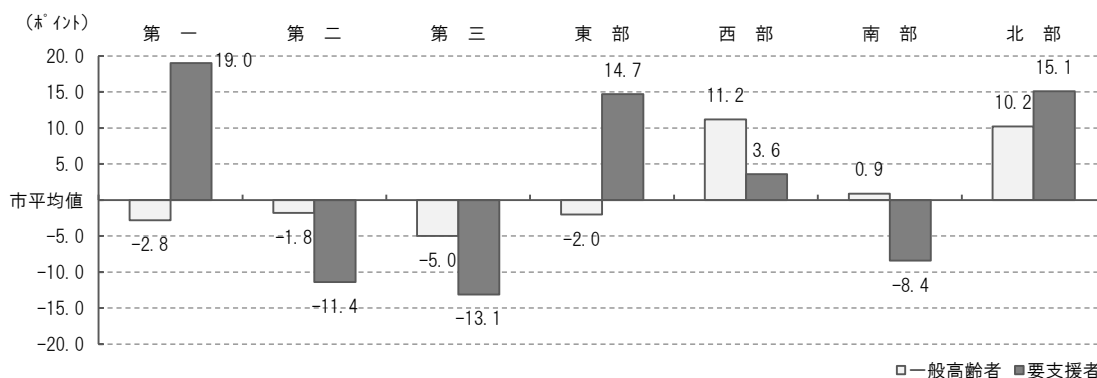


○閉じこもり傾向リスクは、「第一」「東部」の要支援者、「北部」「西部」は一般高齢者・要支援者ともに高くなっています。

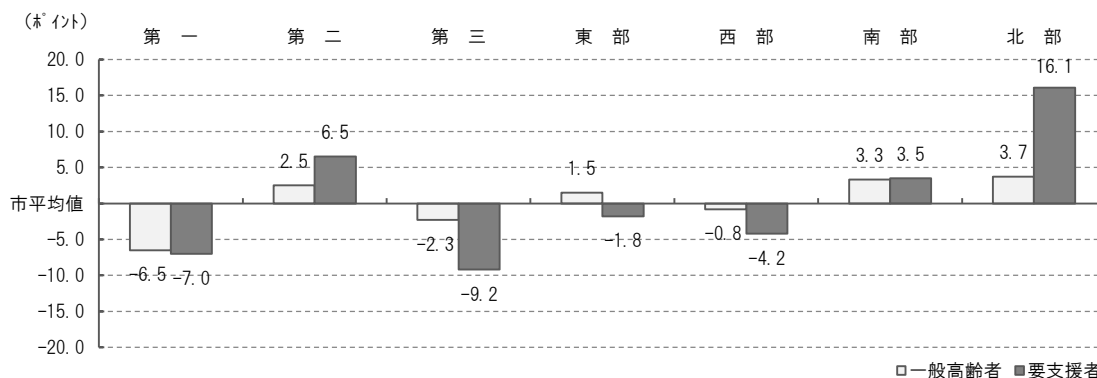
○認知機能の低下リスクは、「北部」「第二」「南部」で一般高齢者・要支援者ともに高くなっています。

○うつ傾向リスクでは、「第三」の要支援者、「東部」「南部」は一般高齢者・要支援者ともに高くなっています。

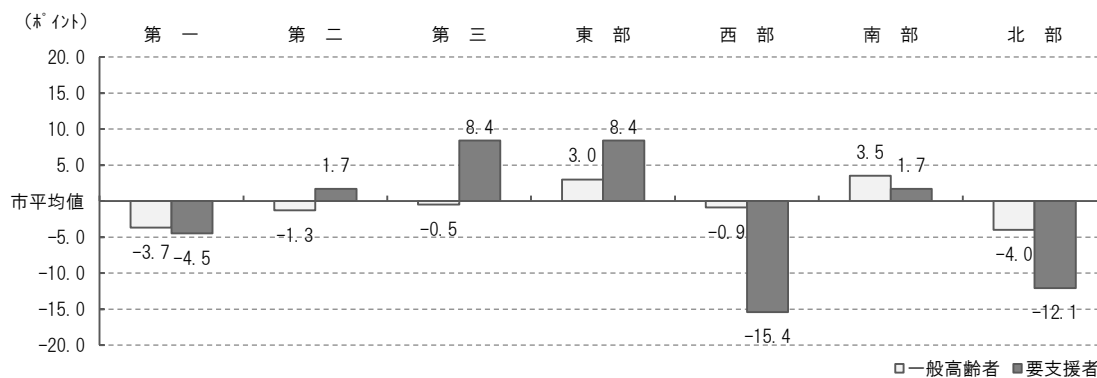
**閉じこもり傾向**



**認知機能の低下**



**うつ傾向**



(3) 生活支援事業対象者の状況

- 生活支援事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者は「第三」「南部」「東部」「第二」で市平均値を上回っています。
- 要支援者では「東部」「第二」で市平均値を上回る状況です。
- 圏域別にみると、一般高齢者は「第三」で5.2ポイント高く、要支援者は「東部」で14.8ポイント、「第二」で11.5ポイント高くなっています。

図 4.8 生活支援事業対象者出現率

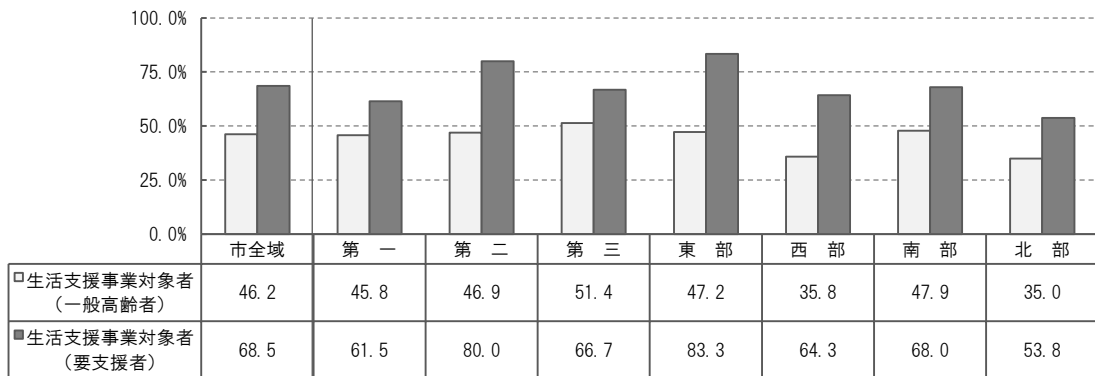
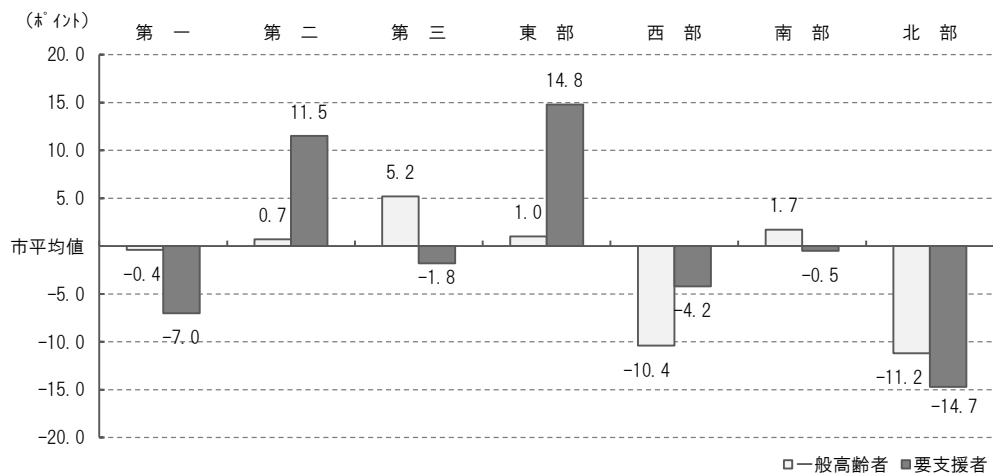


図 4.9 生活支援事業対象者出現率の地域差



#### (4) 生活支援を担う元気高齢者の状況

○一般高齢者において元気高齢者の出現率の地域差をみると、「第一」「東部」「第二」で市平均値を上回り高くなっています。

○元気高齢者の出現率の地域差をみると、「第一」で1.2ポイント、「東部」で0.9ポイント、「第二」で0.3ポイント市平均値より高く、最も低い「西部」で1.1ポイント市平均値より低くなっています。

図 4.10 元気高齢者出現率

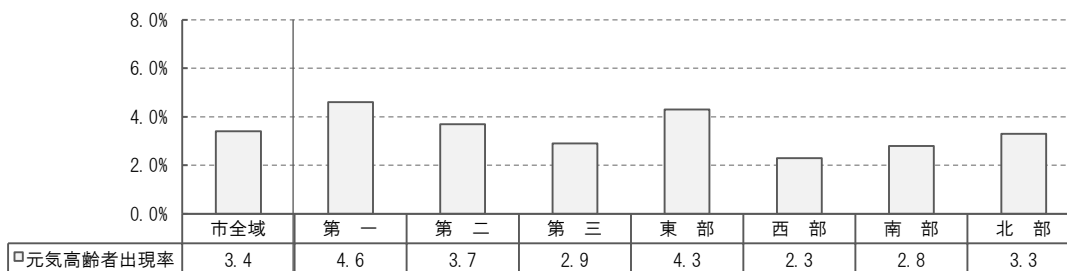
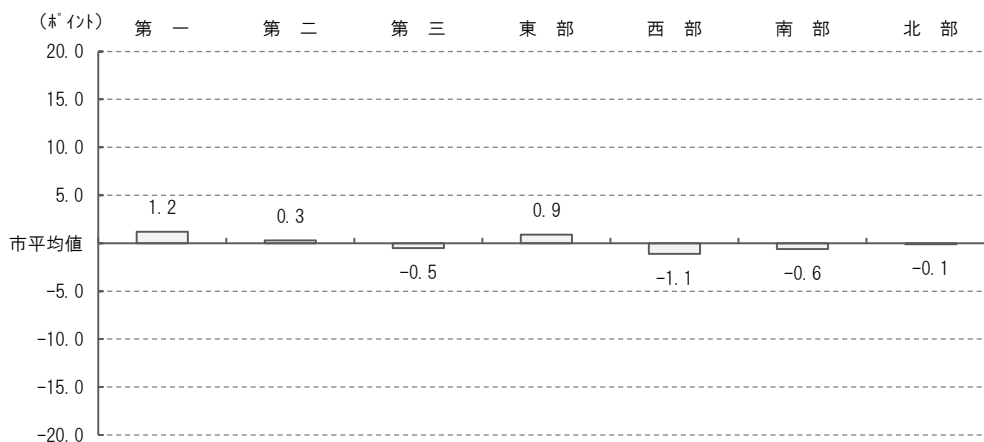


図 4.11 元気高齢者出現率の地域差



### 3 認知症高齢者に関する出現率と地域差

#### (1) 認知機能低下者の状況

- 認知機能低下者の出現率の地域差をみると、一般高齢者は「西部」「北部」「南部」「第二」で市平均値を上回っています。
- 要支援者では「第一」「第二」「南部」「東部」で市平均値を上回る状況です。
- 圏域別にみると、一般高齢者は「西部」で5.6ポイント高く、要支援者は「第一」で7.7ポイント、「第二」で7.3ポイント高くなっています。

図 4.12 認知機能低下者の出現率

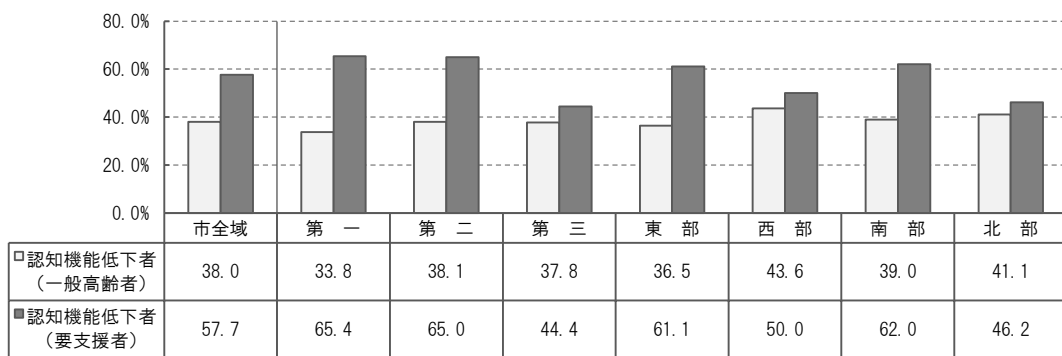
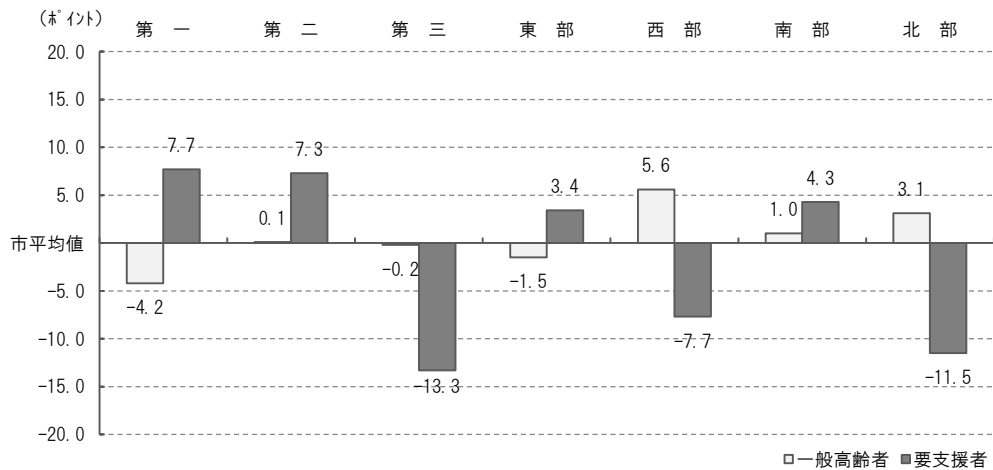


図 4.13 認知機能低下者出現率の地域差



## 4 地域資源等の把握

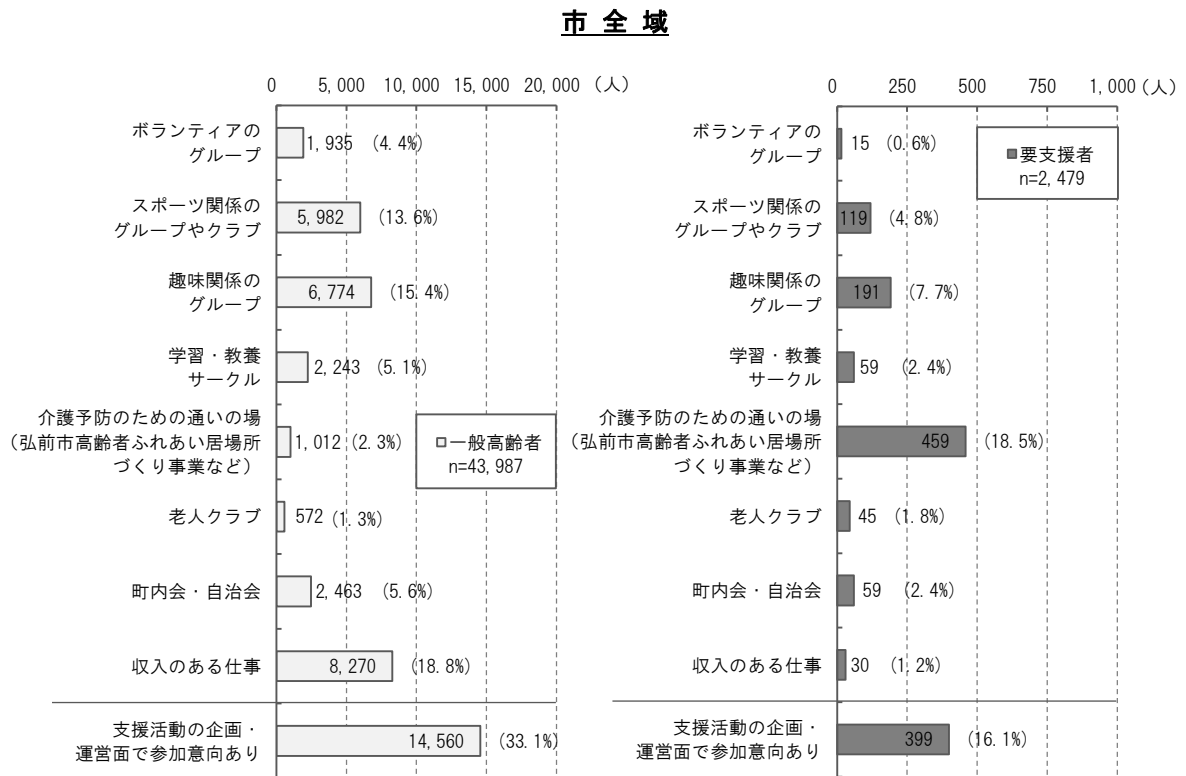
### (1) 地域活動への参加状況

○一般高齢者の地域活動への参加状況をみると、市全域は「収入のある仕事」「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」(18.8～13.6%)で割合が高く、「北部」を除く圏域で順位の前後はあるものの「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」「収入のある仕事」が上位に入っています。

○一方、要支援者は「介護予防のための通いの場」(29.6～7.1%)が高くなっています。

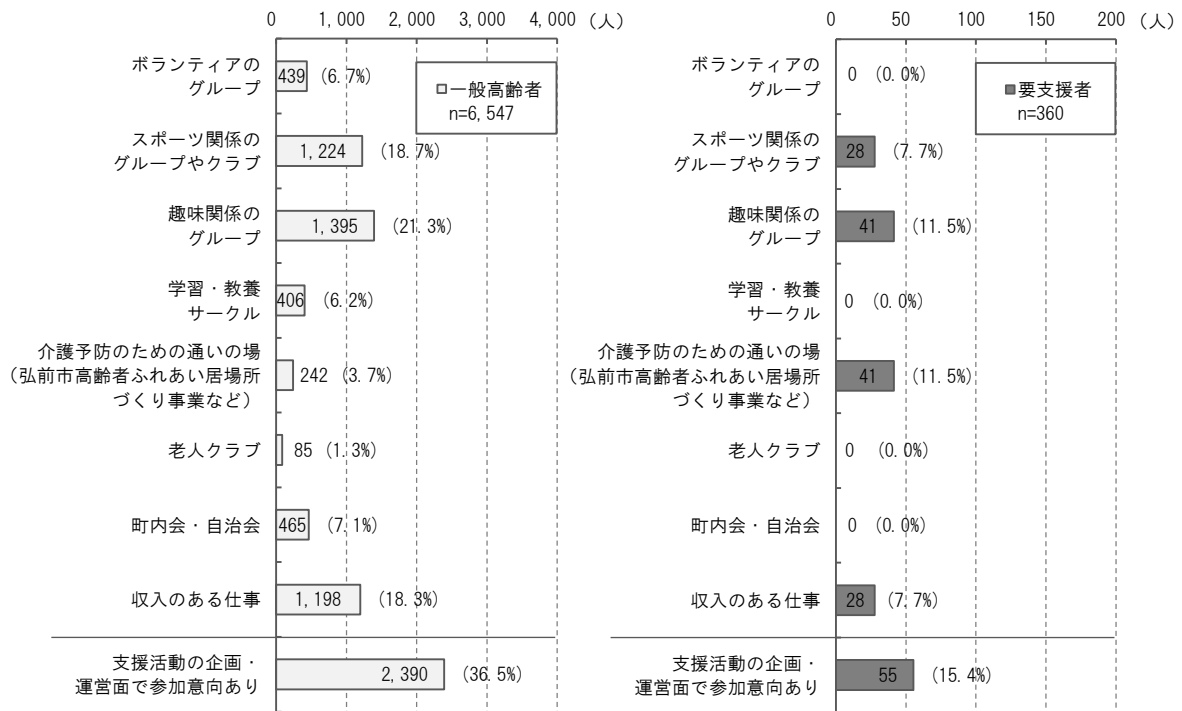
○支援活動の企画・運営面での参加希望を圏域別にみると、一般高齢者は「第一」「南部」「東部」(36.5%・34.7%・34.1%)が市全域(33.1%)より高く、要支援者は「第二」「東部」(25.0%・22.2%)が市全域(16.1%)より高くなっています。

図 4.14 高齢者の活動状況と企画運営支援意向（推計）

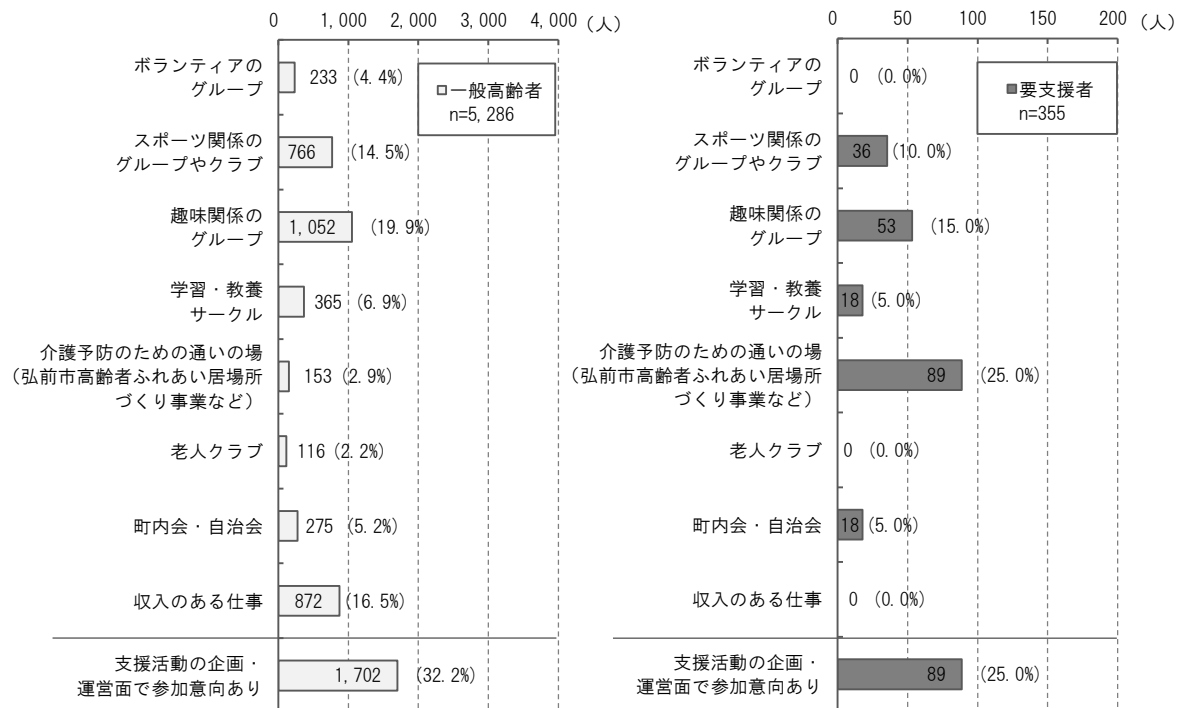


※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

第一圏域

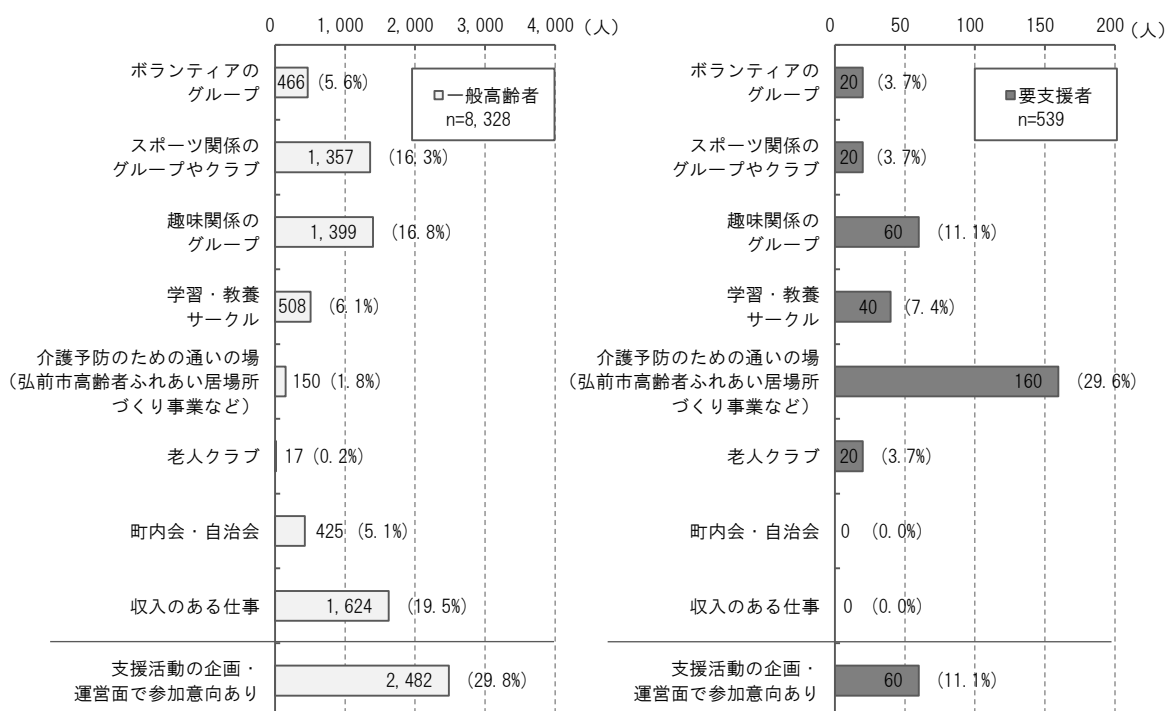


第二圏域

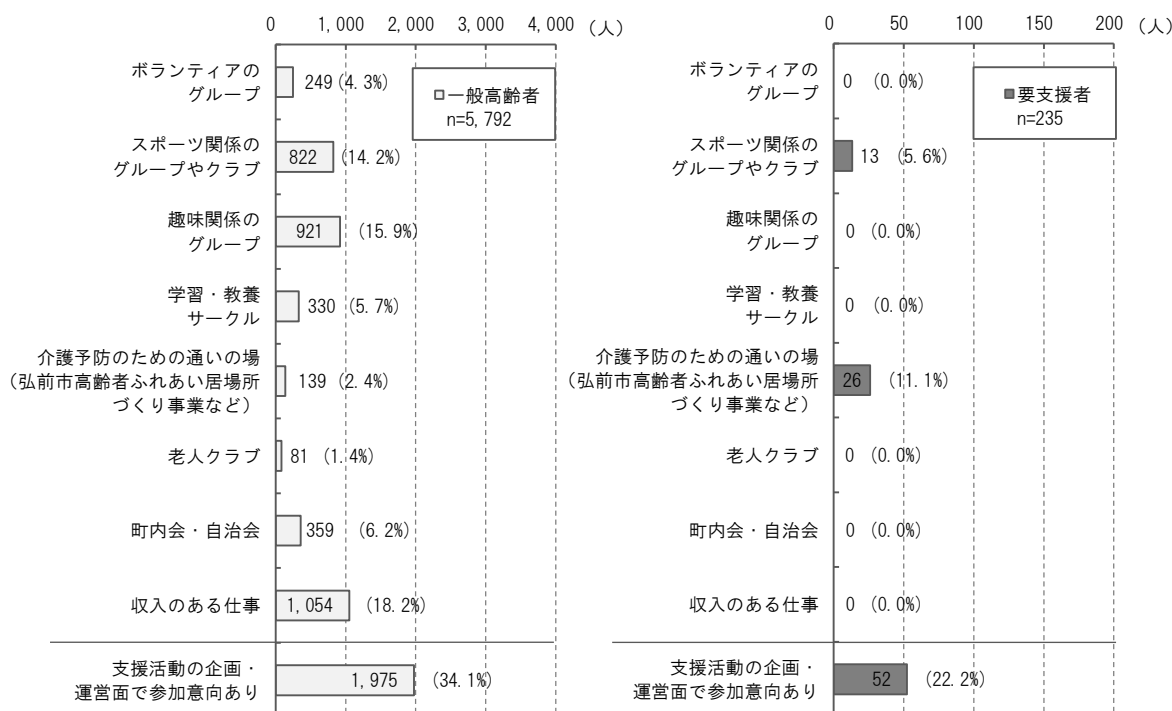


※問5 (1) ①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5 (3) 支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

### 第三圏域



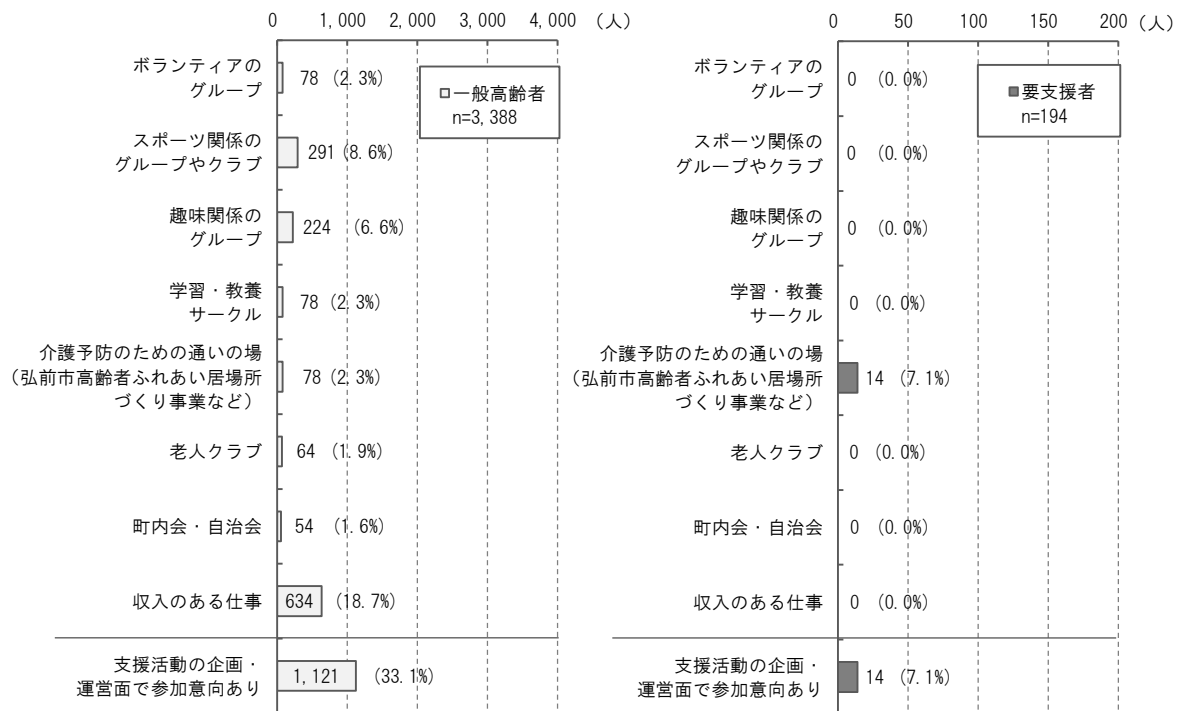
### 東部圏域



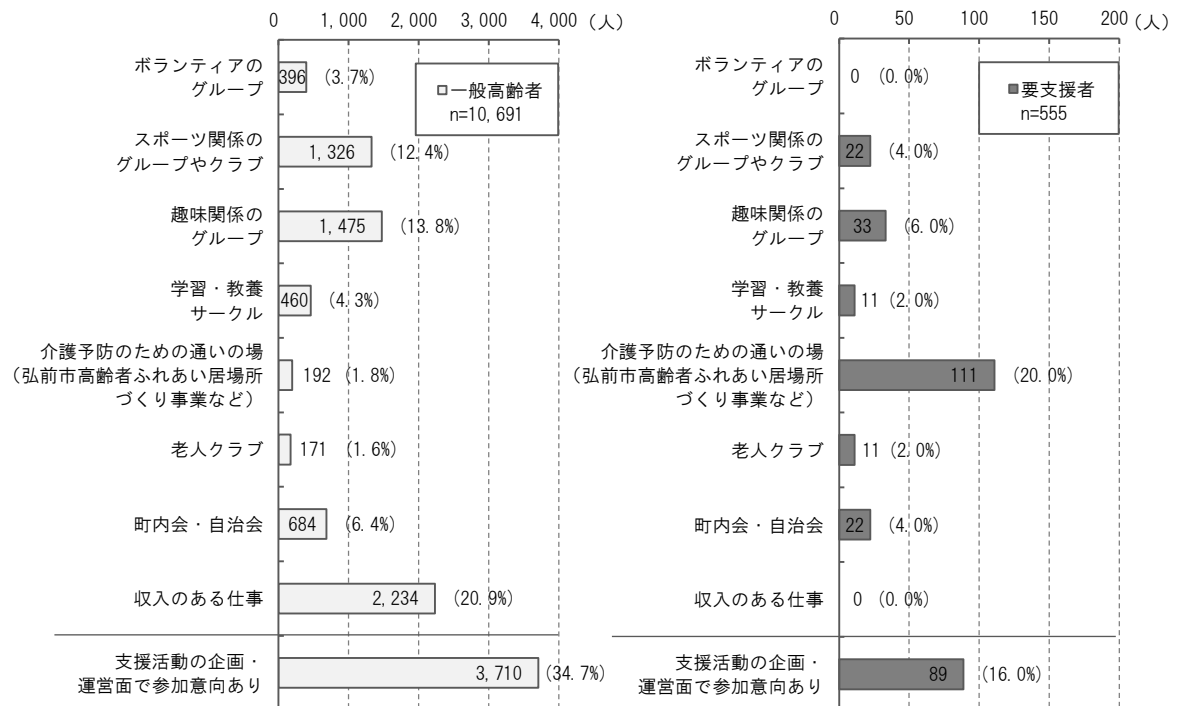
※問5 (1) ①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5 (3) 支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。



西部圏域

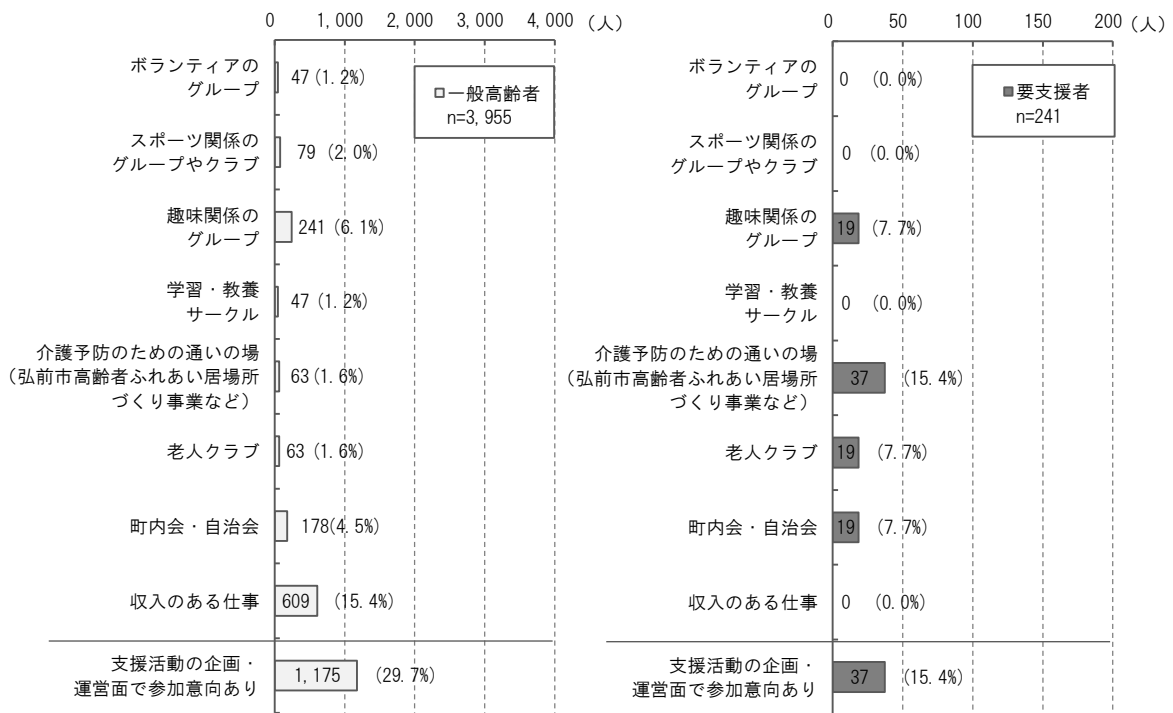


南部圏域



※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

北部圏域

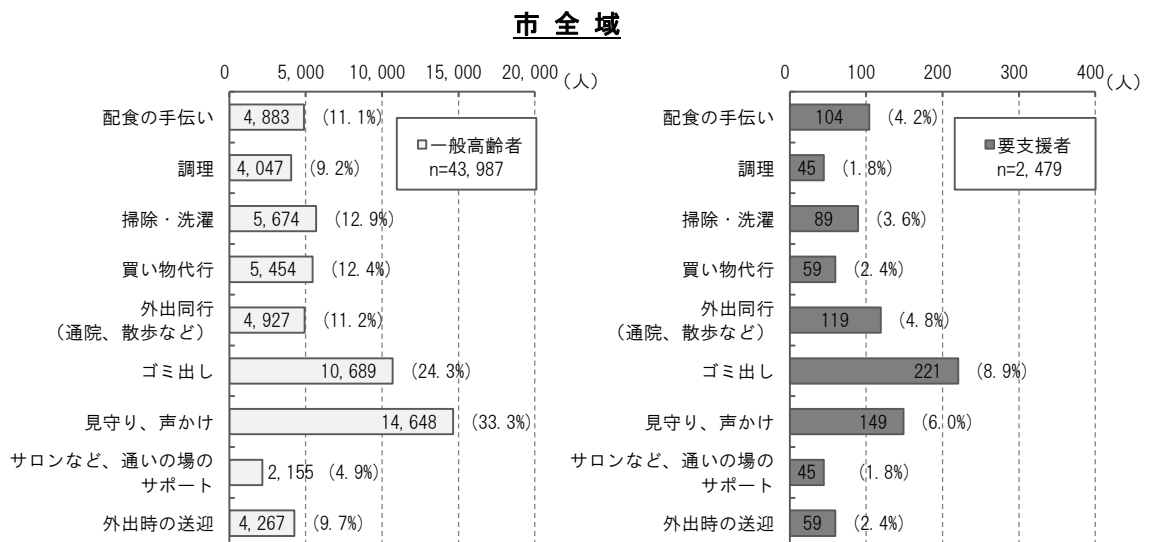


※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

(2) 住んでいる地域で高齢者が支援できるもの(サービス)

〇地域でできると回答した支援をみると、市全域の一般高齢者は「見守り、声かけ」(33.3%)、「ゴミ出し」(24.3%)、「掃除・洗濯」(12.9%)、「買い物代行」(12.4%)、要支援者でも「ゴミ出し」(8.9%)、「見守り、声かけ」(6.0%)で支援意向が高くなっています。

図 4.15 高齢者の地域支援意向(推計)

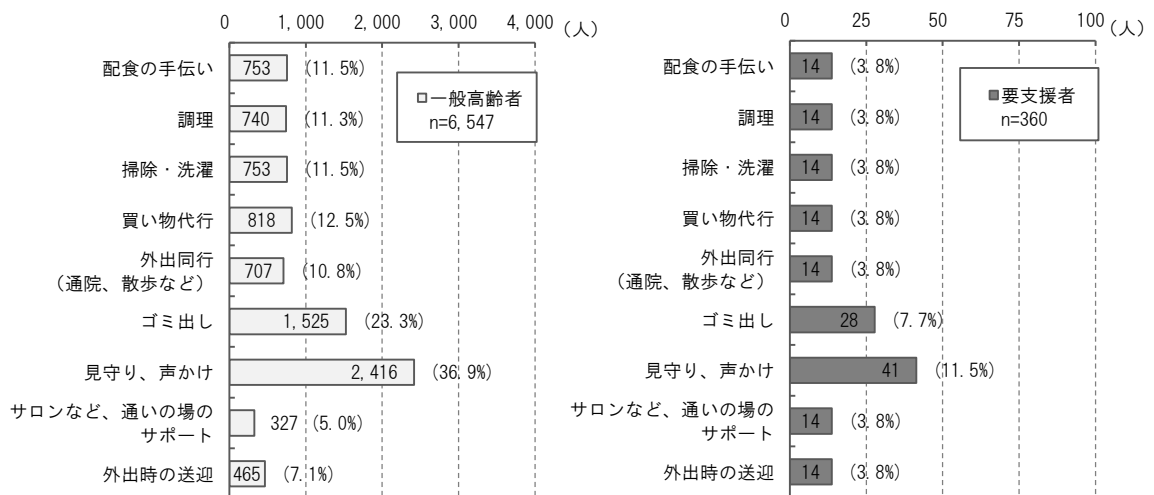


○地域でできると回答した支援を圏域別にみると、一般高齢者は全ての圏域で「見守り、声かけ」(36.9~26.8%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(28.4~19.5%)となっています。

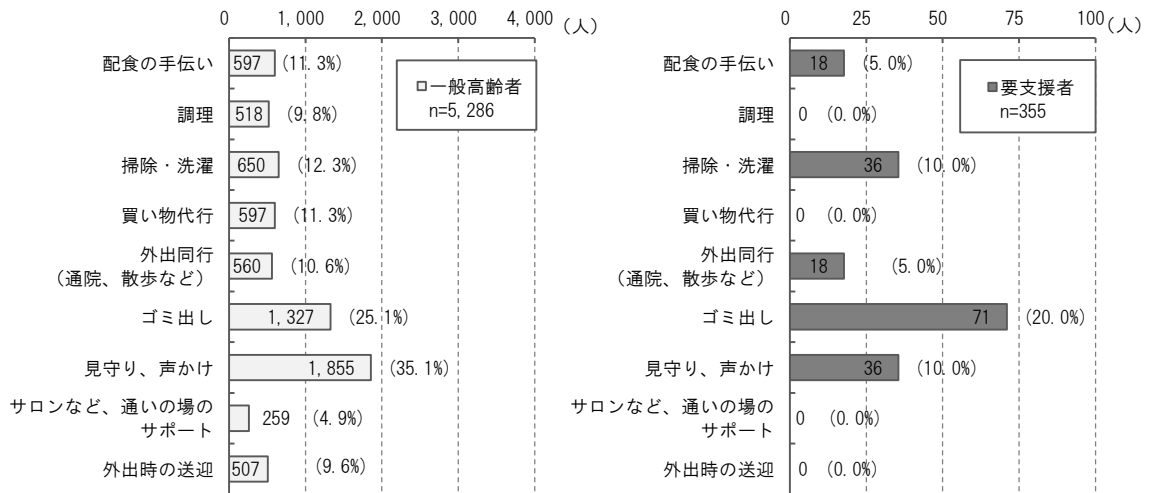
○要支援者では「第二」「東部」「第三」は「ゴミ出し」、「第一」は「見守り、声かけ」、「北部」は「外出同行(通院、散歩など)」、「南部」は「配食の手伝い」「ゴミ出し」「見守り、声かけ」が最も高くなっています。

(「西部」は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

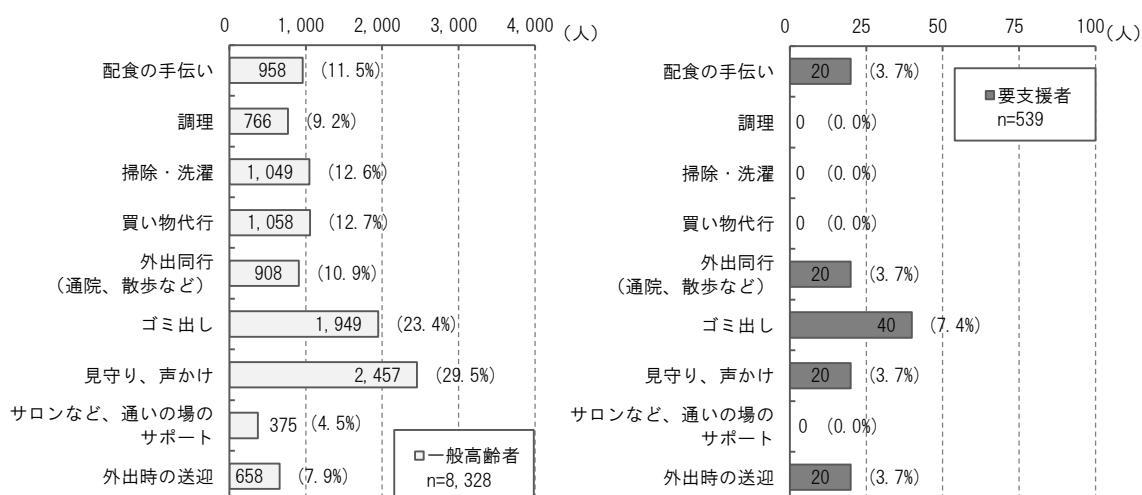
**第一圏域**



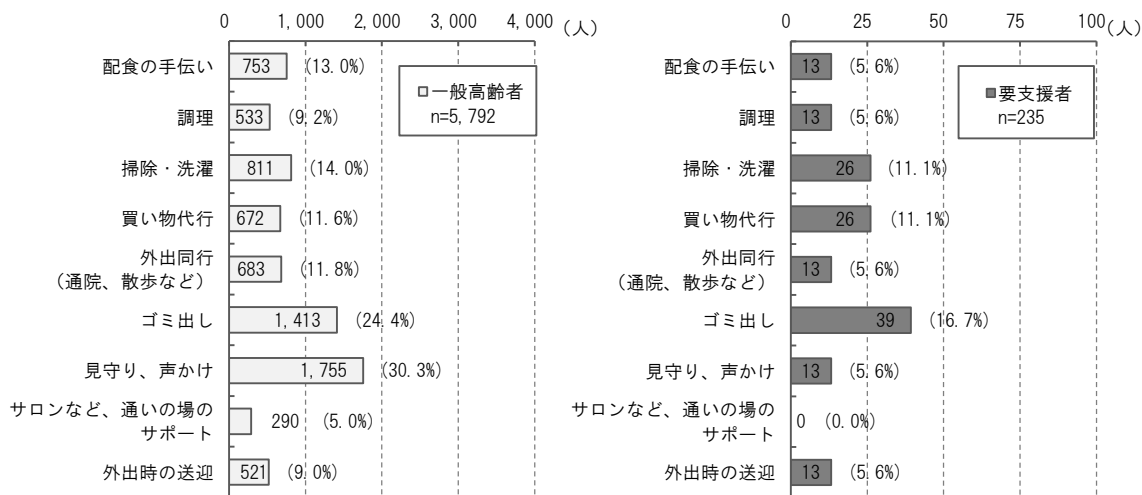
**第二圏域**



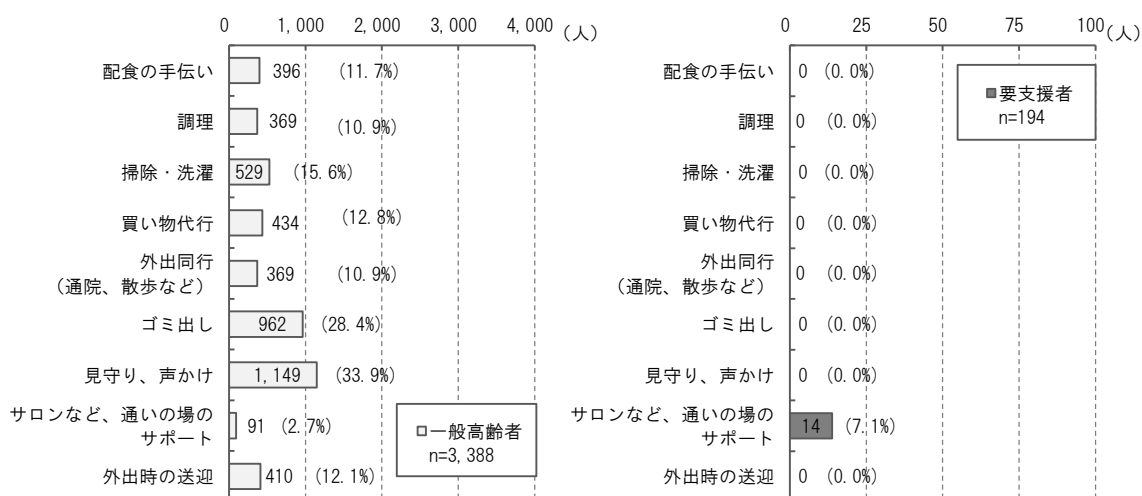
### 第三圏域



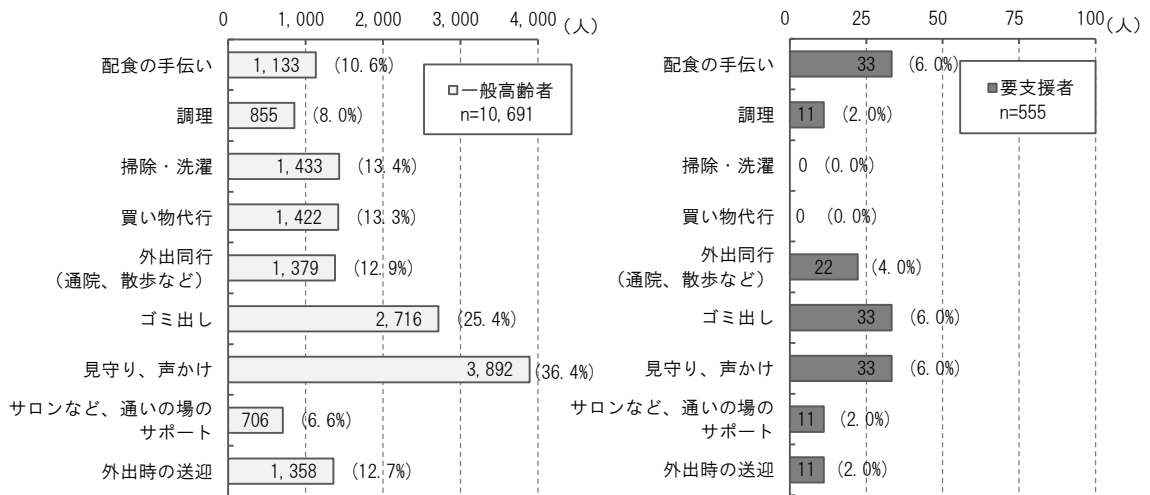
### 東部圏域



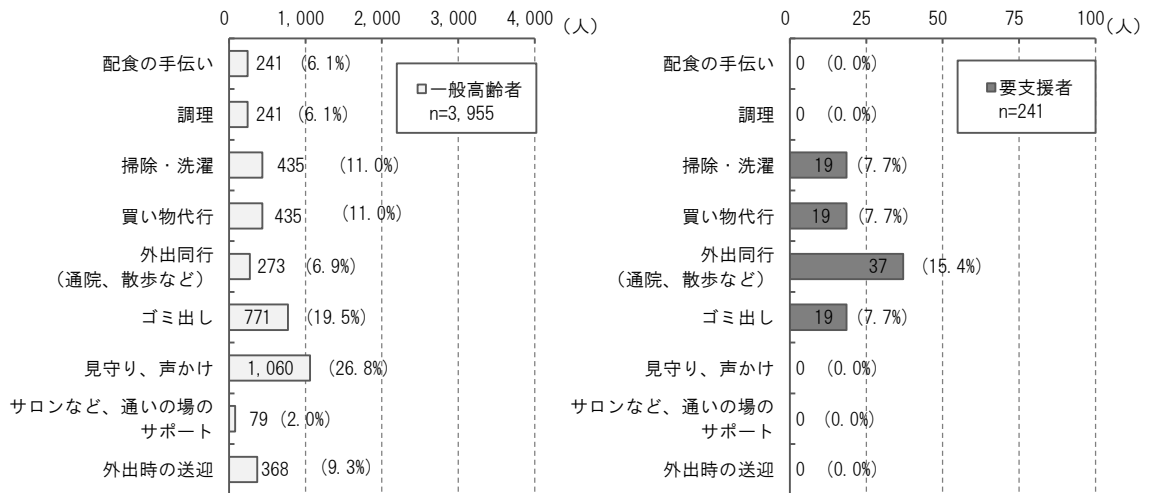
### 西部圏域



南部圏域



北部圏域



### (3) 社会参加と生きがい

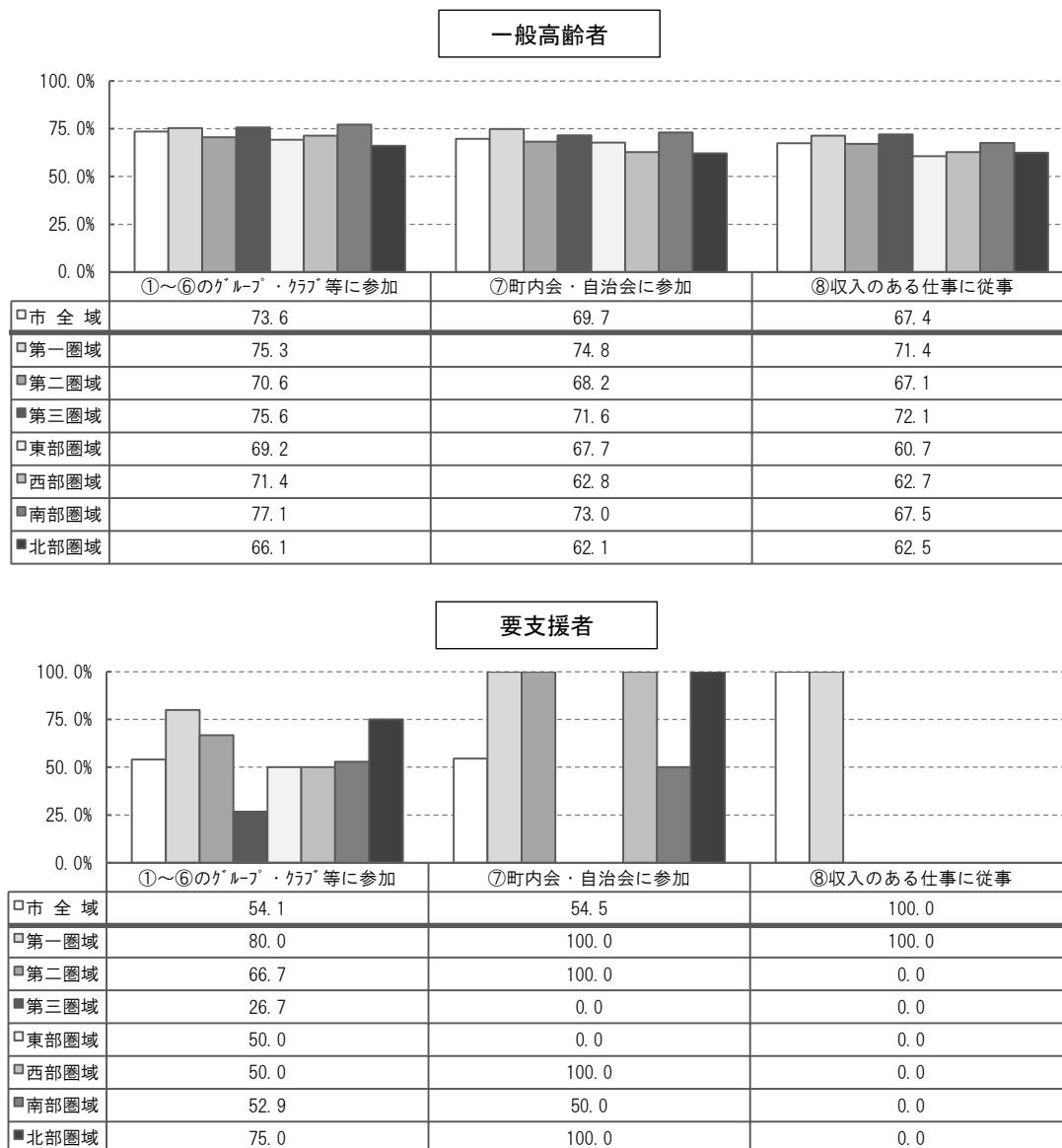
○参加している地域活動の種類別に生きがい感をみると、一般高齢者の市全域は「①～⑥のグループ・クラブ等」、「⑦町内会・自治会」、「⑧収入のある仕事」の順に73.6～67.4%が生きがいを感じていると回答しています。

○一方、要支援者では「①～⑥のグループ・クラブ等」(54.1%)で生きがいを感じていると回答し、一般高齢者と比較して割合は低くなっています。

○圏域別にみると、一般高齢者は「①～⑥のグループ・クラブ等」は「南部」(77.1%)、「⑦町内会・自治会」は「第一」(74.8%)、「⑧収入のある仕事」は「第三」(72.1%)、要支援者では「①～⑥のグループ・クラブ等」の「北部」(75.0%)で最も高くなっています。

(要支援者の「⑦町内会・自治会」「⑧収入のある仕事」は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

図 4.16 地域活動参加者が生きがいを感じている割合



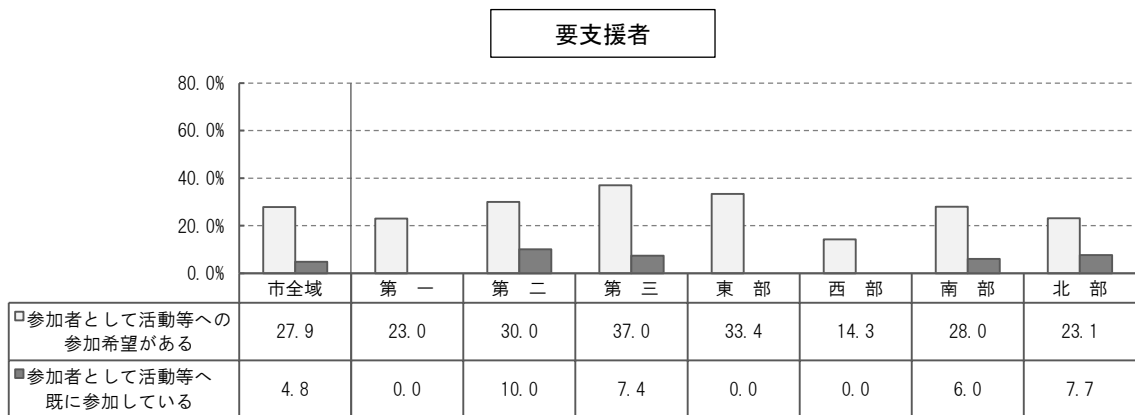
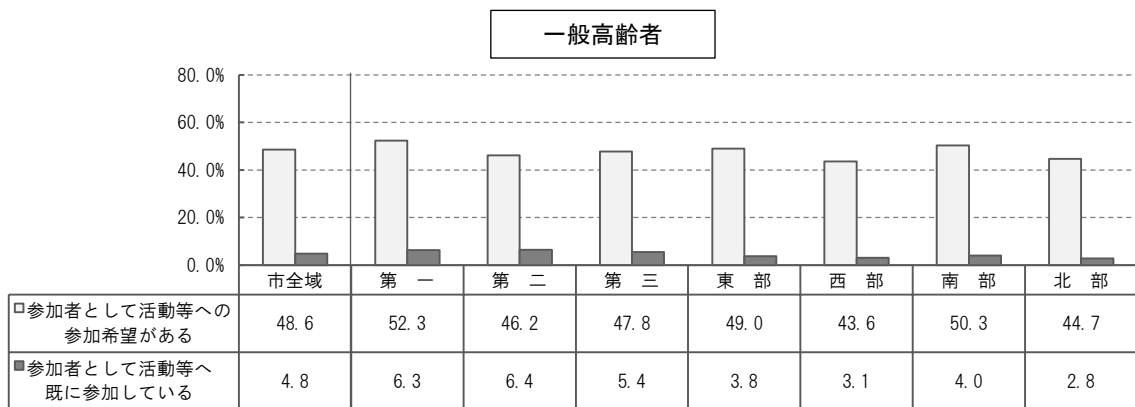
○参加者として地域活動に対する参加意向をみると、一般高齢者の「参加者として活動等への参加希望がある」は、「第一」「南部」「東部」(52.3~49.0%)で市全域(48.6%)より高くなっています。

○要支援者の「参加者として活動等への参加希望がある」は、「第三」「東部」「第二」「南部」(37.0~28.0%)で市全域(27.9%)より高くなっています。

○また、「既に参加している」をみると、一般高齢者は「第二」「第一」「第三」(6.4~5.4%)が市全域(4.8%)より高くなっています。

(要支援者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

図 4.17 地域活動に参加者としての参加意向



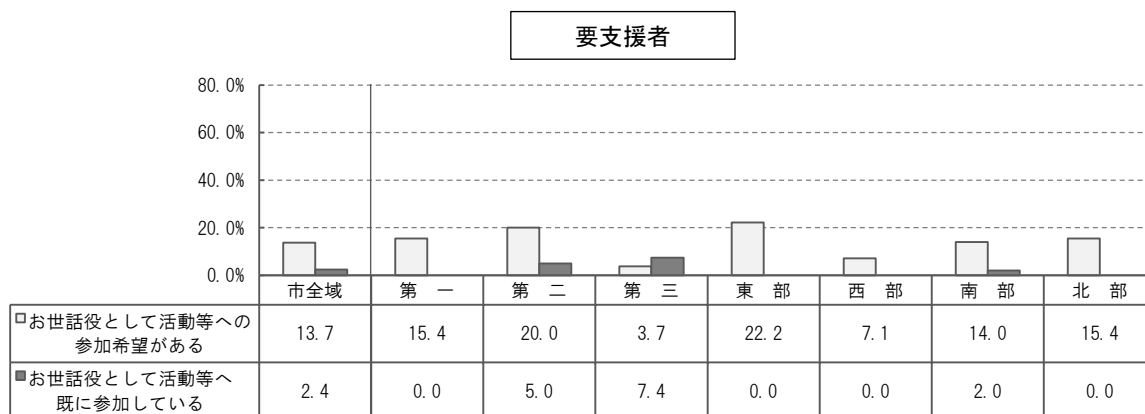
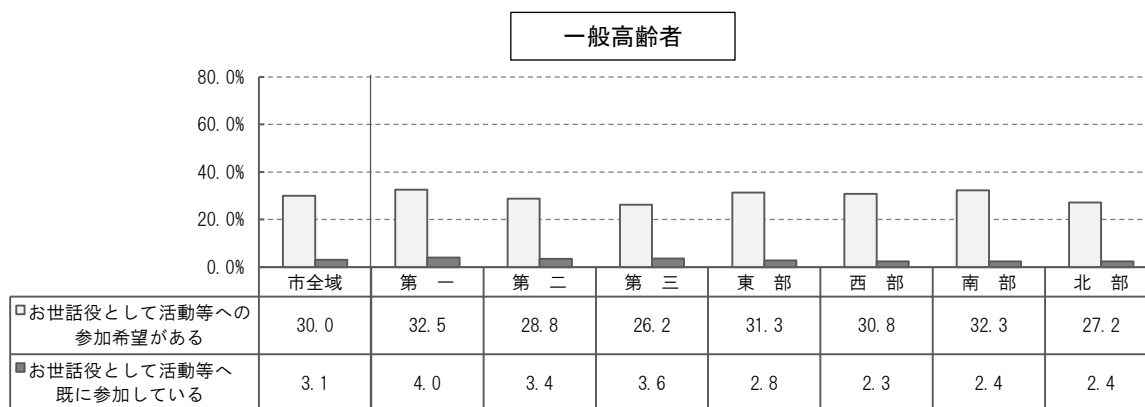
○地域活動にお世話役としての参加意向をみると、一般高齢者の「お世話役として活動等への参加希望がある」は「第一」「南部」「東部」「西部」(32.5~30.8%)で市全域(30.0%)より高くなっています。

○要支援者の「お世話役として活動等への参加希望がある」は「東部」「第二」「第一」「北部」「南部」(22.2~14.0%)で市全域(13.7%)より高くなっています。

○また、「既に参加している」をみると、一般高齢者は「第一」「第三」「第二」(4.0~3.4%)で市全域(3.1%)より高くなっています。

(要支援者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

図 4.18 地域活動にお世話役としての参加意向

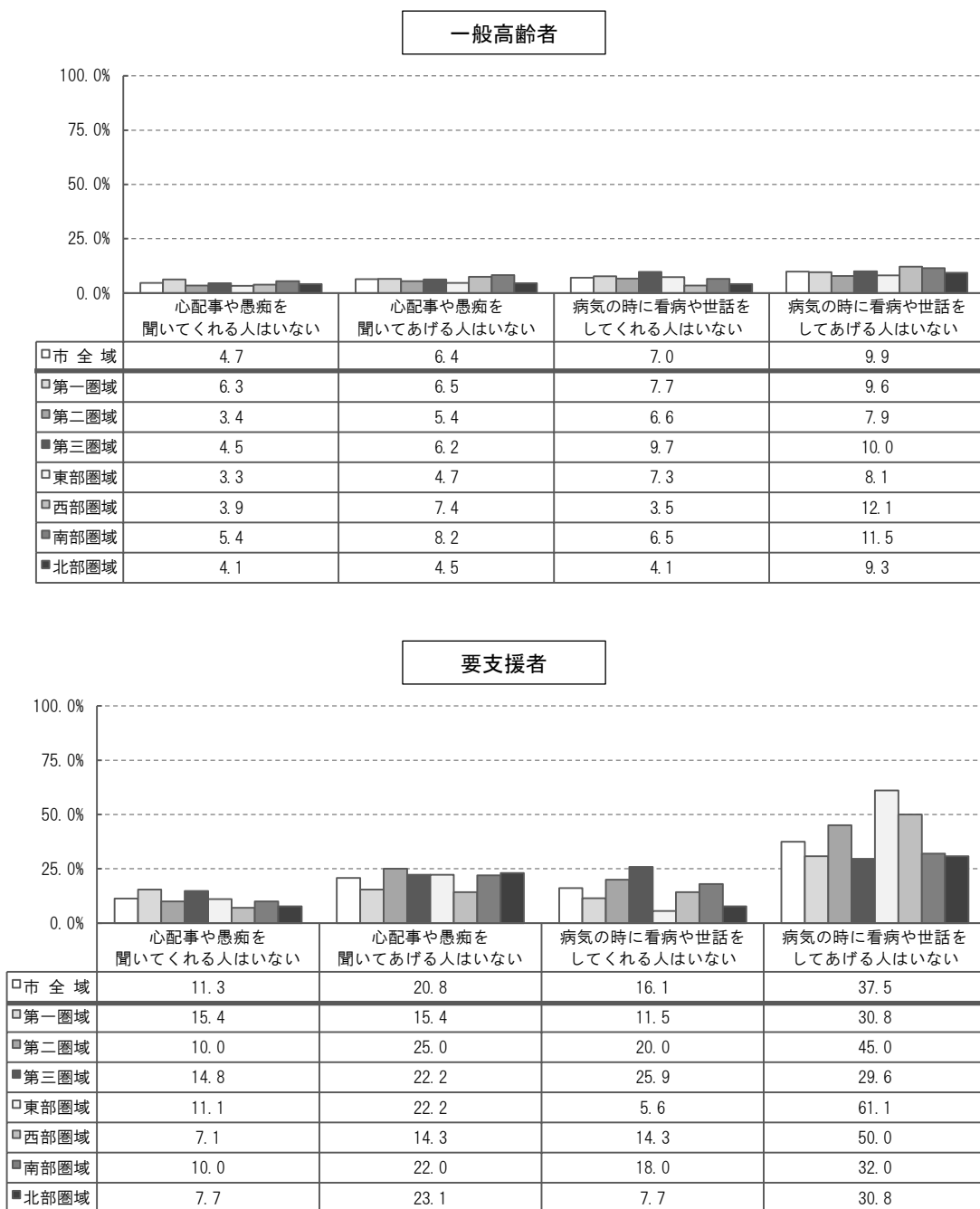




○たすけあいの状況をみると、一般高齢者の市全域では「病気の時に看病や世話をしてくれる人／あげる人がいない」(7.0%・9.9%)、「心配事や愚痴を聞いてくれる人／あげる人がいない」(4.7%・6.4%)となっています。一方で、要支援者は全ての項目で一般高齢者を上回る状況です。

○圏域別にみると、一般高齢者・要支援者ともに「心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない」は「第一」(6.3%・15.4%)、「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」は「第三」(9.7%・25.9%)で最も高くなっています。

図 4.19 たすけあいの状況



※問6(1)～(4)で、「いない」と回答した割合です。

#### (4) 高齢者の公共交通機関の利用状況

○外出する際の公共交通機関の利用率は、市全域の一般高齢者で24.9%、要支援者で13.7%となっています。

○圏域別にみると、一般高齢者は「第三」「東部」「第一」「第二」(34.5~25.6%)で市全域(24.9%)より高くなっています。

○要支援者では、「第三」「東部」「第二」「南部」(22.2~14.0%)で市全域(13.7%)より高くなっています。

図 4.20 高齢者の公共交通利用率

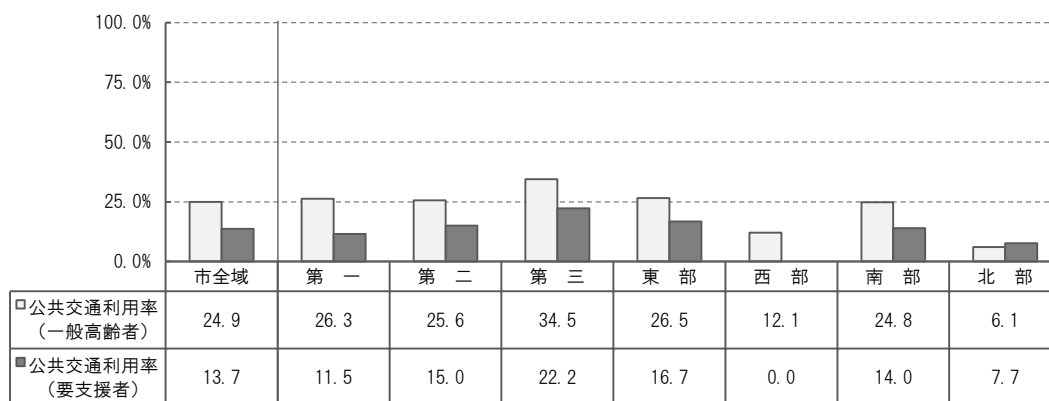
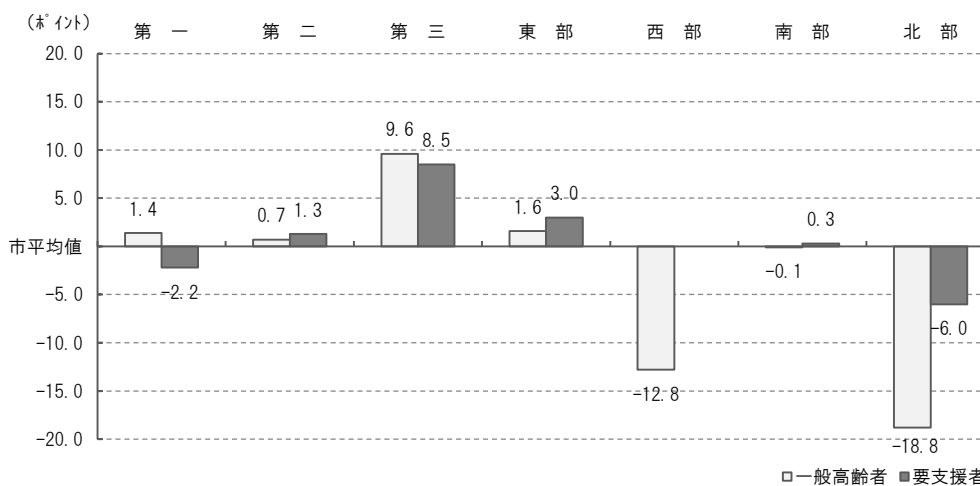
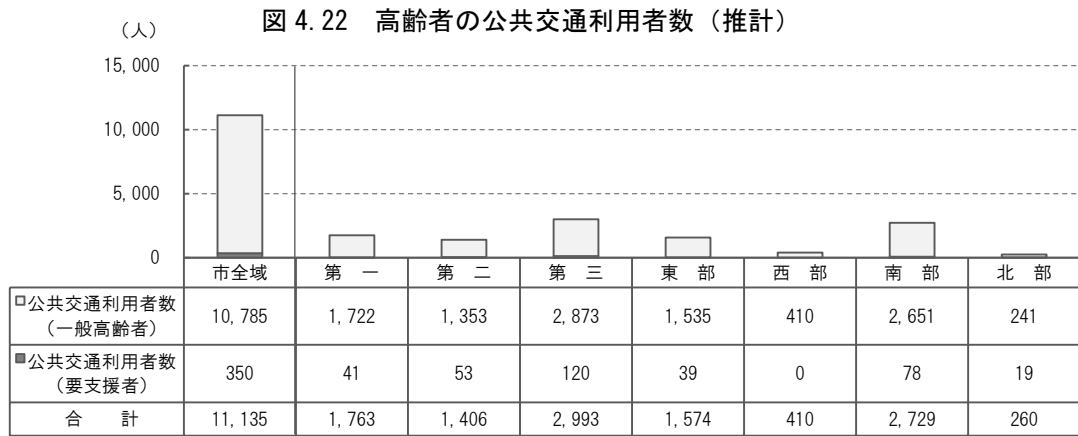


図 4.21 高齢者の公共交通利用率の地域差



○公共交通利用者数の推計人数をみると、市全域は一般高齢者で10,785人、要支援者で350人になると予測されます。



## 5 健康について

### (1) 高齢者の健康感や幸福感

#### ① 一般高齢者の主観的健康感

○一般高齢者の主観的健康感をみると、市全域では「まあよい」(67.0%)が最も高く、次いで「あまりよくない」(18.0%)、「とてもよい」(9.9%)となり、圏域別でも同様の状況となっています。

○また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計を圏域別にみると、「北部」「南部」「第二」(2.7~1.4<sup>ポイント</sup>)は市平均値より高く、「第一」「西部」「第三」「東部」(2.3~1.5<sup>ポイント</sup>)は低くなっています。

図 4.23 主観的健康感

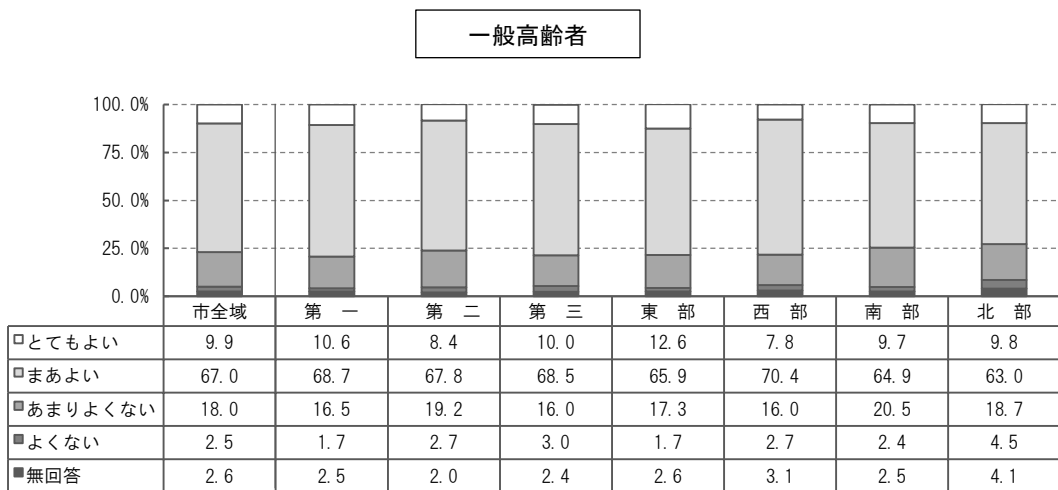
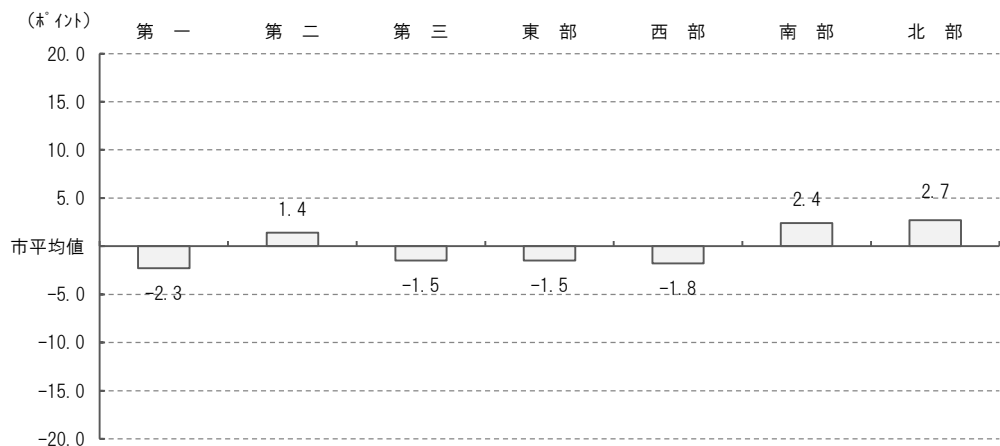


図 4.24 主観的健康感（「あまりよくない」+「よくない」）の地域差



## ② 主観的幸福感

○主観的幸福感の平均点数をみると、市全域の一般高齢者は6.8点、要支援者は6.1点となっています。

○圏域別でみると、一般高齢者は「西部」で0.3ポイント、「北部」で0.2ポイント市全域より低くなっています。

○一方、要支援者では「東部」で0.7ポイント、「南部」で0.6ポイント市全域より低くなっています。

図 4.25 主観的幸福感（平均点数）

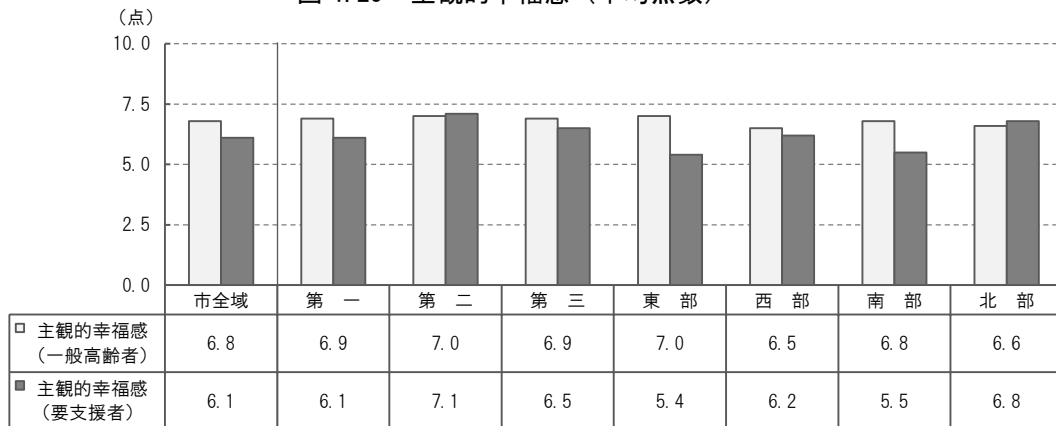
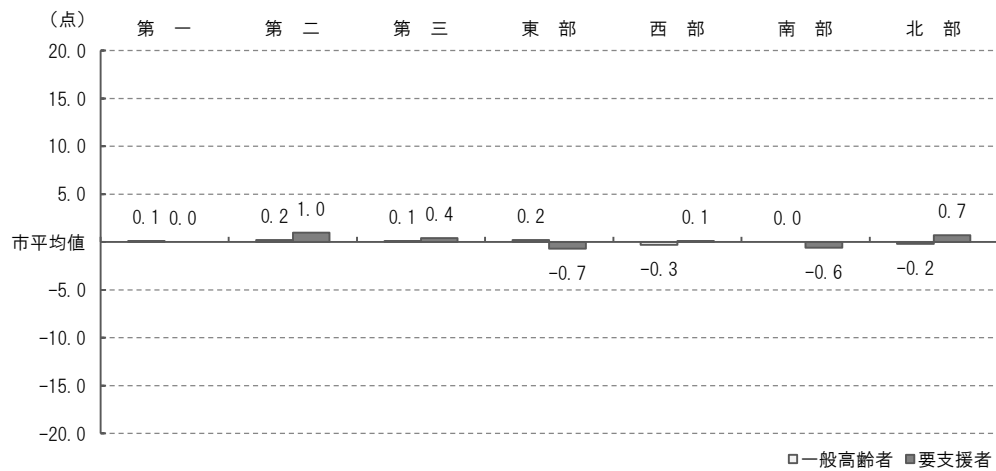


図 4.26 主観的幸福感の地域差



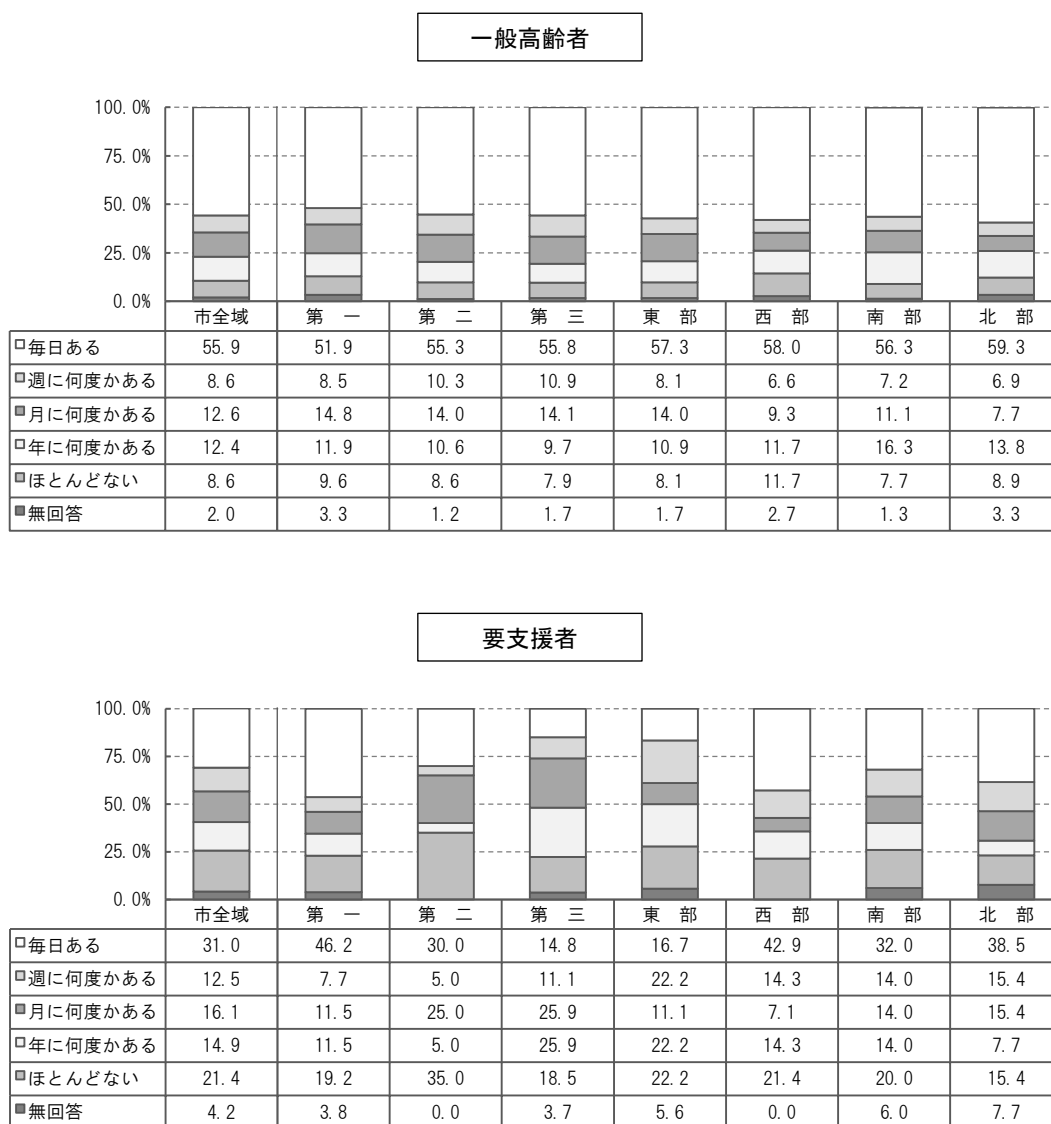
## (2) 誰かとともに食事をする頻度

○誰かとともに食事をする頻度をみると、一般高齢者の市全域は「毎日ある」(55.9%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(12.6%)、「年に何度かある」(12.4%)となっています。

○圏域別にみると、いずれの圏域も「毎日ある」(59.3~51.9%)が最も高く、「北部」「西部」「東部」「南部」は市平均値を上回っています。

○要支援者の市全域では「毎日ある」(31.0%)が最も高く、次いで「ほとんどない」(21.4%)、「月に何度かある」(16.1%)となっています。

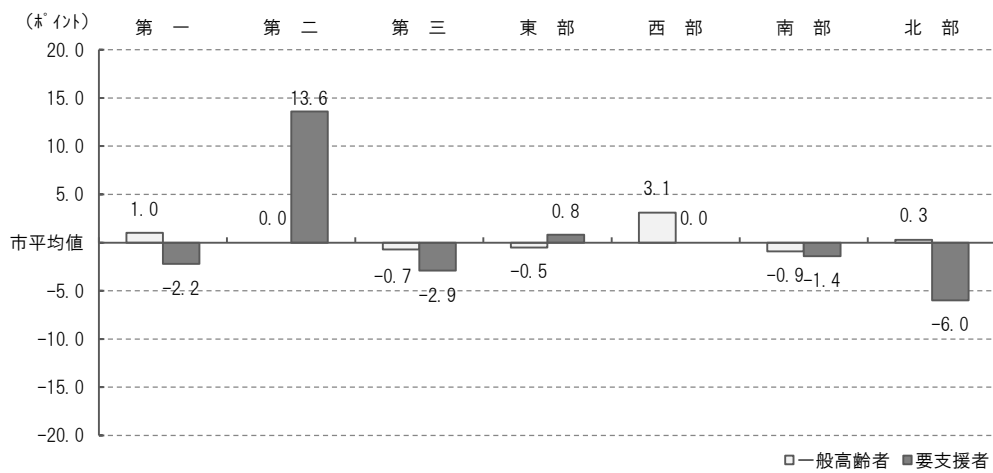
図 4.27 誰かとともに食事をする頻度



○「ほとんどない」と回答した方の地域差をみると、一般高齢者は「西部」「第一」「北部」で市平均値を上回っています。

○一方、要支援者では「第二」で市平均値を大きく上回っています。

図 4.28 誰かとともに食事をしない回答者の地域差



※問3(4)で、「ほとんどない」に回答した割合の差です。